

国語科における

「教えて 考えさせる授業」の実践

—平成27年度袋井市立高南小学校の挑戦—



植阪友理・大石和正（編著）

目次

■はじめに	1
■第1部 指導案集	
1年生指導案（くらべてよもう「じどう車くらべ」）	3
2年生指導案（説明文を書こう 「しかけカードの作り方」「おもちゃの作り方」）	9
3年生指導案（れいをあげてせつめいしよう 「食べ物のひみつ教えます」）	17
5年生指導案（考えを明確にして話し合い、提案する文章を書こう 「明日をつくるわたしたち」）	25
6年生指導案（自分の感じたことを、朗読で表現しよう「やまなし」）	33
■第2部 プレゼンテーション資料集	
1年生学年団	43
2年生学年団	46
3年生学年団	48
4年生学年団	52
5年生学年団	55
6年生学年団	60
■研究メンバー	62

はじめに

本書は、平成27年度に袋井市立高南小学校において行われた実践的研究の一部を紹介するものです。

近年、世界的な動向として、学校では学問の基礎を学ばせるだけでなく、社会で学び続けるための資質・能力を身につけさせるという考え方が広まりつつあります。「21世紀型スキル」、「キー・コンピテンシー」、「資質・能力の育成」といったキーワードは、いずれもこうした学力観の変化を示しています。その一方で、こうした発想に基づくカリキュラムをどのように実現していくのか、また、こうした学力・学習力の指導をどのように行っていくべきなのかについては、いまだ模索段階にあるといえでしょう。「教えて考えさせる授業」はこうした状況の中で、教科の学習を通じて、自立した学習者にもとめられる発想や勉強法についても合わせて指導することを目指す新たな指導法です。心理学において長年対立したものと捉えられてきた受容学習と発見学習を新たな形で統合した画期的な指導法でもあります(詳しくは、市川伸一『「教えて考えさせる授業」を創る—基礎基本の定着・深化・活用を促す「習得型」授業設計—』(2008年、図書文化)などを参照してください)。高南小学校では、平成26年度は算数科を中心に「教えて考えさせる授業」に取り組み、平成27年度に、国語科を中心に学校をあげて研究に取り組みました。本書はその実践の中でも、平成27年度の2学期に行われた研究を中心にまとめたものです。

本書の概要は、以下の通りです。前半は指導案集です。1、2、3、5、6年の5学年分が収録されています(4年生の指導案は、「新版 教えて考えさせる授業 小学校版(図書文化)」(近刊予定)に収録されることが決まっておりますので、割愛しております)。6年年については同一単元から2本指導案が収録されていますので、全6本の指導案となります。各指導案の冒頭には、各指導案の見どころと、課題について、設計にも関わらせていただいた植阪がごく簡単にまとめています。この内容については、実践終了後に学校現場の先生方と植阪が共同で議論を行い、それを植阪がまとめる形で執筆しています。

後半は、2学期以降の実践のプレゼンテーション集です。公開研究授業として行った授業のみならず、日々の授業実践においてどのような工夫を行い、その成果と課題はどのようなであったのかも紹介されています。

この学校の大きな特徴は、もちろん指導案やプレゼンテーションを見ていただいてもわかるように、熱心であることなのですが、それに加えて実践の日常化ということが挙げられるでしょう。プレゼンテーションに示されているように、公開研究授業で実践するのみならず、日々の授業実践でも「教えて考えさせる授業」の発想を生かした様々な取り組みが行われています。「教えて考えさせる授業」を「普段着の授業」と位置付ける、植阪を含む東京大学の市川研究室のメンバーにとっては、こうした取り組みは何よりも嬉しいことでした。

また、「教えて考えさせる授業」は、各地で実践されるようになり、多くの成果をあげつつありますが、それでも国語の実践は難しいということをよく聞きます。本書が、こうした学校において利用され、実践的研究の活性化につながれば、この上ない幸せです。

とはいえ、「教えて考えさせる授業」の国語研究はまだまだ始まったばかりです。ご高覧いただいた先生方ご意見をいただき、実践を深めていきたいと思っています。ぜひ忌憚のないご意見をいただけますよう、お願い申し上げます。

最後に、本書の発行および編集にあたっては、「ガバナンス改革と教育の質保証に関する理論的実証的研究（課題番号：26245075）」（代表、東京大学教育学研究科 大桃敏行）の支援をいただきました。ここに記して感謝申し上げます。

平成 28 年 3 月 吉日

編者代表

東京大学大学院教育学研究科 助教 植阪友理

第1部 指導案集

1年生「じどう車くらべ」 単元名：くらべてよもう

■この単元の概要と見所：

本単元では、バス、乗用車、トラックなど、様々な自動車の果たす役割（「しごと」）に応じて、異なる形状（「つくり」）をしていることを理解し、最終的には、教科書では紹介されていない車について、子ども自身が同じようなスタイルで説明する（図鑑を作る）ことが目標とされている。本時は、「しごと」と「つくり」を捉えて理解することを目指した2時間目である。前時では、「しごと」と「つくり」に分けて線を引く活動や表にまとめる活動などを行っており、両者を区別して捉えることはある程度できるようになっている。しかし、すべての子どもが、自分が説明できるほど理解できているのかは明らかではない。また、繰り返し読んでいた文章ではなく、初出の文章についても同様の作業を行い、自分で表にまとめることができるだけの力が身についているかについても明らかではない。

以上を踏まえて、この授業では、理解確認の部分に、子どもたちがクレーン車になりきって他の子どもたちに「しごと」と「つくり」を自慢してみる、いう活動が設定されている。この授業では、子どもたち自身が理解した状態を、「(形骸化された表現ではなく) 子ども自身の言葉で語れること」と捉えていることが伺える。こうした発想は、算数・数学の「教えて考えさせる授業」とも共通している。すなわち、わからない人がわかるような説明が出来た時にはじめて理解できたと捉えるのである。1年生であっても、教師が十分にモデルを示すなど、工夫を行えば、ここまで深い理解を達成できることを示しており、興味深い。また、指導書では、子どもたちが図鑑にする素材例としてはしご車が紹介されている。本時では、理解深化として、はしご車の文章を教師が作成して与えて、ここから「しごと」と「つくり」を表にまとめている。さらに、はしご車になりきってお話ししてみようという活動が設けられている。初出の文章であっても、自ら必要な要素に切り分け、自分で説明してみるということを図鑑を作る前に体験をさせておくことで、図鑑づくりにもスムーズにつながると考えられる。

■実際に指導した様子を踏まえた、今後の展開にむけた視点：

本時では、前時から引き続き、自分で説明してみる前に表にまとめるという活

動を入れている。子どもたちが表にまとめようとすると、どうしても長くなりがちという問題が発生する。つまり、全文を書き抜いてしまうようなことが多く見られた。一方、表にまとめる際には、短く（場合によってはキーワードで）まとめることも有効である。表に書き抜く際に、短くするというコツを明示的に教えてもよかったのではないかという話が議論の中であがった。表のセルに短い言葉でまとめるということは、一種の抽象化であり、中学年、高学年でも課題になることである。よって一朝一夕にはできるようにならないだろう。しかし、低学年から少しずつ意識させることで、より高度な内容にもなったときにも対応できる力が養える可能性があるだろう。

(文責：植阪友理)

1 日時 平成27年10月14日(水)

2 単元名 くらべてよもう 「じどう車くらべ」(4/8)

3 単元の目標

○自動車図鑑を作ることに意欲をもって、絵本や図鑑、文章などを読み、進んで調べようとしている。(関心・意欲・態度)

○事柄の順序を考えながら読み、必要な言葉や文を書き抜くことができる。(読むこと)

○「そのために」を使って文と文をつなぎ、自動車の「しごと」と「つくり」を説明する文章を書くことができる。(書くこと)

○片仮名を正しく書き、文の中で助詞「は」「を」「へ」や句読点を適切に用いている。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

4 単元構想

(1) 単元観

いろいろな乗り物は、児童が興味・関心を示すものの一つである。本単元では、なかでも特に身近な自動車を取り上げてある。

この「じどう車くらべ」は、「問い+答え+答え+答え」という列挙型の構成になっている説明文である。「どんな仕事をするのか」、そのために「どんなつくりになっているのか」というように、問いが二つあるため、二つの段落に分けて答えるという明確な文章構成である。そのため、内容がとらえやすく、大事な言葉や文を書き抜く力を付けるのに適している。

教材文に書かれている3つの自動車の内容について読み取るために、「しごと」について書かれている言葉には赤線、「つくり」について書かれている言葉には青線を引かせる。2色に分けて線を引くことにより、どの自動車も問いに対する答えが、「しごと」「つくり」「つくり」の順で書かれていることに気付かせたい。また、「そのために」という言葉は、しごとでもつくりでもないことに着目させ、しごととつくりのまとまりをつないでいることを理解させたい。そして、しごととつくりをワークシートに整理して書くことで、二つの関係性をいっそう明確に捉えさせたい。読み取ったことをペアの友達に話す活動を取り入れる。その際、自分が自動車になりきって「しごと」と「つくり」自慢をする形とする。そうすることで、読み取った内容の理解を深めるとともに、自分の言葉で説明できる力を付けていきたい。

本単元の言語活動として、「自動車図鑑」をつくる活動を設定した。図鑑を書くために、学級文庫の中に乗り物カードや乗り物の本を置き、意識的に自動車の本に触れさせている。教材文で3つの自動車を含めていろいろな自動車について「しごと」と「つくり」を調べて図鑑を作る。ワークシートを貼り合わせていけば図鑑が完成するようにして、学習意欲を継続させていきたい。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、学習に対する関心・意欲は高い。しかし、その中に、ひらがなを読むことが困難な児童がいたり、語彙が乏しい児童もいたりする。

今までに学習した説明文は「くちばし」と「うみのかくれんぼ」である。「くちばし」では、問いと答えが3回繰り返されている文章を読み、そこでは、説明文の基本的なパターンを学習し、内容を正しく読み取ることを学んだ。そして、くちばしクイズを作り、問いと答えの形に

慣れた。「うみのかくれんぼ」では、「何が」「どこに」「どのようにして」隠れているのが、同じ文型で書かれているため、問いに対する答えが見付けやすく意欲的に読み取ることができた。そして、自分の言葉で隠れ方を説明できる子も多かった。じどう車くらべでは、問いに対する答えを正しく見付け、書き抜くことができることを目指したい。

(3) 学習計画 (全8時間)

時	○目標 ・主な学習活動 ☆困難度査定	○教えること ・考えさせること	評価
1	○いろいろな自動車に興味をもち、学習の見通しをもつことができる。 ・全文を読み学習の見通しをもつ。 ・自動車図鑑を作ることを話す。		・自動車について知っていることを話したり聞いたりして、図鑑作りに関心をもち、自動車に関する本や文章を進んで読もうとする。 (関・意・態 発表・観察)
2	○じどう車くらべを読み、内容の全体を読み取ることができる。 ・新出漢字や片仮名を学習する。 ・問いや答えについて考える。		・問いが何か、答えがいくつ書かれているか読み取っている。 (読 発表 ノート)
3	○バス、じょうよう車の「しごと」と「つくり」を見付けることを通して、トラックの「しごと」と「つくり」を書き抜くことができる。	○「しごと」と「つくり」が書かれているポイント	・バス、じょうよう車、トラックの「しごと」と「つくり」を書き抜くことができる。 (読 ワークシート)
4 (本時)	○クレーン車の「しごと」と「つくり」を見付けることを通して、はしご車の「しごと」と「つくり」を書き抜くことができる。 ☆「しごと」と「つくり」を見付けること。	○バス、じょうよう車とクレーン車のしごととつくり ・トラックとはしご車の「しごと」と「つくり」を見付けること。	・クレーン車、はしご車の「しごと」と「つくり」を書き抜くことができる。 (読 ワークシート)
5	○「はしご車」の図鑑の書き方を知り、完成することができる。 ・はしご車の図鑑を全員で作る。	○文型を教える ・文型に合わせた説明文を書くこと	・はしご車について、そのためにを使い、書くことができる。 (書 ワークシート)
6・7	○「自分の選んだ車」の図鑑を書くことができる。 ・自分の選んだ車について、はしご車と同様に図鑑を作る。 ☆内容を決めて、その車に合った「しごと」と「つくり」を見付けだすこと。	○図鑑の文章の書き方 ・自分の選んだ車の図鑑を書くこと。	・選んだ自動車について、「しごと」と「つくり」にあたる部分を書き抜いている。 (読 ワークシート)
8	○自分の自動車図鑑を紹介し合うことができる。		・片仮名を正しく書き、文の中で助詞「は」「を」「へ」や句読点を適切に用いている。 (言 ワークシート)
			・自動車図鑑を発表できる。(関 発表)

4 本時の活動

(1) 目標

クレーン車の場面を読み「しごと」と「つくり」を見付けることを通して、はしご車の「しごと」と「つくり」を見付け、大事な言葉を落とさず書き抜くことができる。(読むこと)

(2) 本時のおさえ

【教えること】 クレーン車の「しごと」と「つくり」

【考えさせること】 はしご車の「しごと」と「つくり」を見付けること

(3) 準備物

ワークシート3枚 挿絵 クレーン車とはしご車の本文(拡大したもの)

はしご車の本文(児童)

(4) 本時の展開

		○学習活動 ・児童のあらわれ	○留意点 ・支援
教える	教師からの説明	<p>○学習活動 ・児童のあらわれ</p> <p>1 文章をとらえる。 ○クレーン車を読もう。</p> <p>2 めあての確認をする。 ㊦ 「しごと」と「つくり」を見付けて書こう。</p> <p>3 クレーン車のしごととつくりを見付ける。 ○「しごと」と「つくり」が分かる言葉を探そう。しごとは、赤線、つくりは、青線で引いてみよう。 ・しごと おもいものをつり上げる ・つくり じょうぶなうでがのびたりうごいたりする。 ・つくり しっかりしたあし。 ○クレーン車のページにしごととつくりを書いてみよう。</p>	<p>○留意点 ・支援</p> <p>○語のまとまりに気を付けて読ませる。 ・うまくひらがなが読めない、Y. S やK. Eには、指で示しながら読むように声を掛ける。 ○大切なポイントを押さえる。 ㊦ しごと……………○○○のしごと つくり……………あります。 います。 そのために……「しごと」と「つくり」をつなぐ言葉</p> <p>○「しごと」と「つくり」をつなぐ「そのために」を先に丸で囲むようにする。 ・線を引くことができない児童には、一緒に文を読み、ポイントとなる言葉を探し、考えさせる。 ○キーワードを板書し、説明し合うときに活用できるようにする。</p>
	理解確認	<p>4 しごととつくりを説明する。 ○クレーン車になって話してみよう。 ・クレーン車は、おもいものをつり上げる仕事をしています。 ・じょうぶなうでがあるよ。 ・しっかりした足があるよ。</p> <p>5 はしご車について考えよう。 ○はしご車の「しごと」と「つくり」を見付けよう。 ・しごと たかいところにいる人を助ける ・つくり ながいはしごがあるよ ・つくり じょうぶなあしがあるよ ○はしご車のページにしごととつくりを書いてみよう。 ○はしご車になって話してみよう。</p>	<p>○ペアで説明し合うようにする。 ○交流しやすいように、クレーン車のつくりのキーワードを黒板に掲示する。 ・何を話して良いかわからない児童は、教師と一緒に話すようにする。</p> <p>○はしご車の文章を配り、文章を範読し、全員で読むようにする。 ○クレーン車と同じ手順で、見付けるようにする。</p> <p>・はしご車の「しごと」と「つくり」を書き抜くことができたか。 (ワークシート)</p>
	考えさせる	<p>6 今日の学習を振り返る。 ㊦ はしご車は、たかいところにいる人をたすけることがわかったよ。</p>	<p>○わかったことや難しかったことをワークシートに記入する。</p>
	自己評価		

2年生「しかけカードの作り方」「おもちゃの作り方」 単元名：せつめい書を書こう

■この指導案の概要と見所：

本単元は、2つの教材文「しかけカードの作り方」「おもちゃの作り方」を1単元として10時間構成となっている。前時に「けん玉の作り方」の教材文で、つなぎことばを使いながら、順序立てて説明することを学ぶ。本時では、「しかけカードの作り方」を使い、全体として大きく幾つかのまとまり（ステップ）に分かれており、さらにそれぞれのステップの中にもいくつかの段階があることを取り上げる（具体的には、ステップ1：しかけの台になる部分を作る、ステップ2：かざりの部分を作る、ステップ3：貼り合わせる）。最終的にはステップとつなぎことばを上手に使いながら説明することを目指す。教科書には明示的に書かれていないが、「しかけカードの作り方」の教材の持つ特徴である、つなぎことばの上位に、大きなまとまり（ステップ）が存在するというところを取り出して指導しているのである。つなぎことばを超えたより上位の構造があることを、教師が意識化するのみならず、子どもたちに意識化させることで、つなぎ言葉の利用を超えたより質の高い説明を実現しようとしている点が特徴である。

また、こうしたポイントが理解できているかを確認するために、理解深化課題では、子どもたち自身に、「しかけカードの作り方」を、教科書の写真のみを指し示しながら、発表させる課題を設定している（図1）。こうした説明活動では、往々にして教科書を丸暗記して対処しようとしがちであり、なかなか



図1 子どもが説明する様子（理解深化）

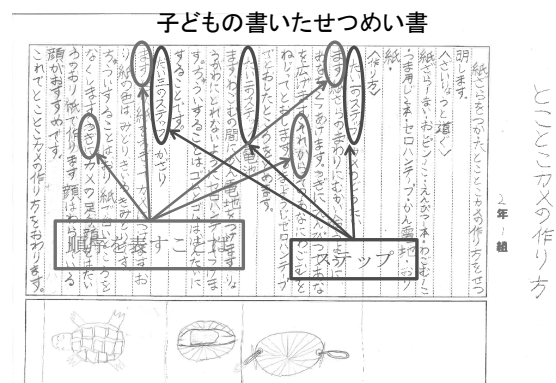


図2 子どもの説明書（単元の終末）

第2部の2年団プレゼン資料より

自分のことばになりにくい。そこで、実際に説明させるまえに、教師がしかけカードを作る様子を無言で実演して見せ、それらを自分なりの言葉でみんなに分かりやすく伝えてほしいということを求めている。こうした工夫によって、子どもたちは子どもなりの言葉で説明していたという。

単元の終末では、自分で説明したいおもちゃをきめて、説明書を書く活動が設定されている。図2に示すように、ステップとつなぎことばをうまく組み合わせながら説明している様子がみて取れる。教材が持つ特性を十分に分析し、明示的に教えられなければ子どもが気づきにくいポイントまで取り出し、明示的に伝えていたことによって、子どもたち自身の個人で取り組む最終課題の質を高めることになったと考えられる。

■実際に指導した様子を踏まえた、今後の展開にむけた視点：

本時では、ステップとつなぎ言葉をうまく組み合わせながら説明することがポイントであった。この点をもっと早い段階で示しても良かったのではないかという議論がみられた。実際の授業では、「大切」として、授業のポイントが最も明示的に示されたのは、理解深化課題においてであり、教師が紙を切る様子を演じたのちに、子どもに実際に説明させてみる直前であった（このため、指導案でも、「大切」が理解深化の中に書かれている）。子どもたちがやってみたい！という気持ちが高まっているところを少し水をさしたような形になってしまったとも聞いている。理解確認課題も、つなぎ言葉を探す活動であり、ステップが本格的に取り上げられたのは理解深化の中であった。

このようなことを踏まえると、以下のような代替案も考えうるのではないだろうか。

教師からの説明：長い手続きを説明するときには、大きなまとまり（ステップ）とその中の細かい段階という流れで説明すると良いことを教え、「しかけカードの作り方」が実際にそのようになっていることを教科書に印などをつけながら学ぶ。ステップの中には、1つしか段階がなく、つなぎ言葉を多く利用する必要がない場合もあることも伝える（「しかけカード作り」のステップ2やステップ3など）。

理解確認：実際に「しかけカード作り」をステップとつなぎ言葉を使いながら説明してもらおう（実際の授業の理解深化で行っていた活動を理解確認で行うイメージ）。教科書の棒読みにならないように、先生の演示も取り入れる。

理解深化：かざりの部分に色をつけること（ステップ2が複数の手続きからなる）や、封筒も手作りをして、そこに入れること（ステップ4として、封筒作りが加わる）なども加えた方法を教師が演示してみせ、それらを上手に説明する方法をグループで考えさせる。

自己評価：わかったこと、まだよくわからないことなどを書かせる。

（文責：植阪友理）

1 日時 平成27年 11月 18日(水) 5校時

2 単元名 せつめい書を書こう (3/9)

3 単元の目標

- おもちゃの説明書を作ることに興味をもって文章を読み、説明のしかたのこつを生かして分かりやすく作り方を説明しようとしている。(関心・意欲・態度)
- ◎説明書を書くために必要な事柄を集め、内容のまとまりに気をつけて、作り方の手順を絵と対応させながら文のつながりを意識して書くことができる。
(書くこと)
- 文章の中で使われている分かりやすい説明の仕方を読みとることができる。
(読むこと)
- 作り方の手順に沿って、順序を表す言葉を用いることができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

4 単元構想

(1) 単元観

本単元は、しかけカードを作るという実際の作業を伴うため、児童一人一人が楽しく読み取りに参加できると考えられる。また、生活科の「おもちゃランド」と関連させて、友達におもちゃの説明書をプレゼントするという目標が明確であるため、「分かりやすい説明書を作りたい」という意欲もわいてくるだろう。

先に「おもちゃの作り方」の単元を扱い、けん玉の作り方が材料や作り方の順序、遊び方などを順序立てて説明する文の構成になっていることを学習する。そこで、「まず」「次に」「それから」などの順序を表す言葉(接続語)を使うと分かりやすいということを知り、自分の説明書にもその言葉を入れると分かりやすいことを教える。そして、「しかけカードの作り方」の教材にもどり、作る相手を意識して、順序を考えた構成になっていることを確認しながら、しかけカードの作り方を友達に説明するという活動を行う。その活動を通して、分かりやすい説明をするには接続語を用いることやまとまり(ステップ)に分けることが有効であると気付くだろう。また、説明書には絵が効果的に使われていることや、具体的な数が示されている良さなどにも気付かせ、おもちゃの作り方を知らない友達にも分かりやすく、イメージしやすい説明書を作るヒントとしたい。

(2) 本単元に関する児童の実態

本学級の児童は、学習に対して真面目に取り組む児童が多い。しかし、自分の考えをなかなかもてない児童や自分の言葉で表現することにつまずく児童もいる。

今までに学習した説明文は、「たんぼぼのちえ」と「どうぶつ園のじゅうい」である。「たんぼぼのちえ」では、時間の順序を表す言葉や、理由を表す言葉に着目をして学習を進めてきた。また、「どうぶつ園のじゅうい」では、単元を貫く言語活動として、自分の学校での一日を、時間を表す言葉を使ったり、理由を入れたりして書き、保護者に聞かせる活動を行った。その際、時間を表す言葉を適切に使ったり、出来事の原因を入れたりして文を書ける児童がいる一方で、時間を表す言葉を適切に使えない児童や理由が抜けてしまっている児童も見られた。「しかけカードのつくりかた」では、おもちゃの説明書を、作り方を知らない友達でも分かるようにということを意識させ、説明のこつを使って分かりやすく書くことを目指したい。

(3) 学習計画 (全 9 時間)

時	○目標 ・主な学習活動 ☆困難度査定	○教えること ・考えさせること	評価
1	○「けん玉の作り方」や「しかけカードの作り方」を読み、学習の見通しをもつことができる。 ・全文を読み、学習の見通しをもつ。 ・生活科でおもちゃ作りをし、その説明書を書くことやおもちゃランドへの招待状を作るということを話す。		・教科書の挿絵を見て、どんなしかけカードやおもちゃがあるかを話したり聞いたりして、しかけカードやおもちゃ作りに関心をもっている。 (関・意・態：発表・観察)
2	○順序を表す言葉を使ってけん玉の作り方を説明することができる。 ☆工程が変わるときに順序を表す言葉を使うこと	○「まず」「つぎに」「それから」は順序を表す言葉であること。 ・順序を表す言葉を使って分かりやすく説明すること。	・順序を表す言葉を使い、けん玉の作り方を説明することができる。 (言：観察・ノート)
3 本時	○順序を表す言葉を使ったり、文章をまとめたり (ステップ) に分けたりして、しかけカードの作り方を自分の言葉で説明することができる。 ☆文章をまとめたり (ステップ) に分けること	○前時のこつに加え、まとめたり (ステップ) に分けて説明すること。 ・どんな順序を表す言葉をつかうか選ぶこと。	・分かりやすい説明をするには、順序を表す言葉を使ったり、まとめたり (ステップ) に分けたりするとよいことが分かる。 (読：観察・発表・ノート)
4 ・ 5	○「けん玉の作り方」と「しかけカードの作り方」の中で使われている、分かりやすい説明の仕方を理解し、まとめることができる。 ・大事な所に線を引きながら「しかけカードの作り方」を読み、手順を確認しながらしかけカードを作る。 ・「けん玉の作り方」と「しかけカードの作り方」を読み、両方に共通しているよさを見付けまとめる。 ☆分かりやすい説明の仕方には、「順序を表す言葉」と「まとめ (ステップ) に分ける」こと以外にどんなものがあるか気付くこと	○自分が作ったときに、よく見た部分が、分かりやすい説明をしているところであること。 ・「順序を表す言葉」の他に分かりやすい説明のこつを見付けていること。	・しかけカードの作るために、書かれている説明を詳しく読み取ろうとしている。 (関・意・態：観察) ・「けん玉の作り方」と「しかけカードの作り方」の中で使われている分かりやすい説明の仕方を見付けまとめている。 (読：発言・ノート)
6 ・ 7	○分かりやすい説明をするこつを使い、おもちゃの説明書を書くことができる。 ・けん玉の作り方を参照し、自分の作ったおもちゃの説明書を分かりやすく書く。 ☆分かりやすい説明をするこつを生かすこと	○まとめりごとの書き方。 ・自分の選んだおもちゃについて説明書を書く。	・分かりやすい説明の仕方を使いながら、おもちゃの作り方を、まとめりに分け、順序を考えて書いている。 (書：ワークシート)
8	○自分の書いた説明書を推敲し、より分かりやすい説明書を作ることができる。 ☆どこを直したらよいか見付けること。	○文章を見直す観点を教える。 ・間違いや分かりにくい表現を書き直す。	・書いた説明書を書き直し、分かりやすいかに気をつけて、書き直すことができる。(書：ワークシート)
9	○友だちと説明書を読み合い、感想を伝え合うことができる。 ・グループで説明書を読み合う。		・説明書を読み合い、よさを伝え合っている。 (言：観察・ワークシート)

4 本時の活動

(1) 目標

写真を見ながらしかけカードの作り方を説明する活動を通して、しかけカードは大きく3つのまとまり(ステップ)でできていることをとらえたり、順序を表す言葉(接続語)を用いて説明したりすることができる。(読むこと)

(2) 本時のおさえ

【教えること】 前時のこつに加え、大きなステップに分けて説明すること。

【考えさせること】 どんな順序を表す言葉(接続語)を使うか選ぶこと。

(3) 準備物

教師…画用紙(しかけカード用)のり 挿絵 説明の仕方のたんざく 本文(掲示用)

(4) 本時の展開

授業前	○学習活動 ・児童のあらわれ		○留意点 ・支援 評価
	予習	○前日に教科書P38, 39を読んできるとする。	
「教える」	教師からの説明	<p>1 復習をする。</p> <p>○「けん玉の作り方」の〈作り方〉にはどんな順序を表す言葉を使っていたかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めは「まず」を使っていた。 ・「つぎに」「それから」も順序を表す言葉です。 <p>○けん玉の作り方は、まっぼっくり(ステップ)、紙コップ(ステップ)、合体(ステップ)の3つのステップに分かれています。</p> <p>2 めあての確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>め じゅんじょをあらわすことばや「ステップ」をつかって分かりやすくせつ明をしよう。</p> </div>	<p>○前時を振り返り、「順序を表す言葉」を使うと分かりやすいことを確認する。</p> <p>○隣同士で確認させることで、授業に向かう姿勢をもたせる。</p> <p>○ステップの意味をおさえる。</p> <p>・R男、K男：同じペースで書いていたら認める声掛けをする。</p>
	理解確認	<p>3 「しかけカードの作り方」に出てくる順序を表す言葉を丸でかこむ。</p> <p>○「しかけカードの作り方」に出てくる順序を表す言葉を丸で囲もう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全部で6つありました。 ・「まず」「つぎに」「それから」は、「けん玉の作り方」にも出てきました。 ・「こんどは」「さいごに」「これで」は、初めて出てきました。 	<p>・T男、R男、K男、K女：6つの順序を表す言葉を丸で囲んでいるか確認する。</p> <p>○本文(掲示)の順序を表す言葉を丸で囲み確認する。</p>
「考えさせる」	理解深化	<p>4 「しかけカードの作り方」は3つのステップでできていることをおさえる。</p> <p>○「しかけカードの作り方」はいくつかのステップでできています。どこで別れているか考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使っている画用紙が変わるので、3段落と4段落で分かれていると思います。 ・3段落と4段落で画用紙の色が変わっているから分かれていると気づきました。 	<p>○「3つのまとまりに分かれます」</p> <p>「第1のステップは～」</p> <p>「第2のステップは～」</p> <p>「第3のステップは～」</p> <p>の文を提示する。</p> <p>○けん玉での作り方と同様に、どこで作業の工程が変わっているのか見つけるよう促す。</p>

「考えさせる」	理解深化	<ul style="list-style-type: none"> 5 段落では、のりで貼る作業だから、4 段落と 5 段落で分けられると思います。 5 「順序を表す言葉」と「ステップに分ける」こ つを使って「しかけカードの作り方」をペアに 自分の言葉で説明する。 ○ 2 つのこつを使って「しかけカードの作り方」 を自分の言葉で説明しよう。 ・ ○ ○ さんの説明は、3 つのステップに分かれて いて、順序が分かりやすかったです。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ どんなどころがよかったか、 どこが分かりやすかったかを アドバイスし合うよう促す。 ○ 「大切：1 順序をあらわすこ とばをつかう 2 ステップに分 ける」と板書し、困っている 児童にすぐ声掛けができるよ うにする。
	自己評価	<p>6 今日の学習を振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>⊕ 分かりやすいせつ明をするには、「じゅんじょ をあらわすことば」と、「ステップに分ける」こ とをつかうとよい。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 分かったことや難しかったこ とを自分の言葉でノートにま とめさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「順序を表す言葉」と「ステ ップに分ける」という 2 つの こつを使って説明することが できたか。 (読むこと)</p> </div>

⑤ 分かりやすいせつ明をするには、「じゅんじょ
をあらわすことば」と、「ステップに分ける」こ
とをつかうとよい。

大切
②① じゅんじょをあらわすことば
② ステップに分ける

だい三のステップはく

だい二のステップはく

だい一のステップはく

三つのまとまりに分かれています。

しかけカード

⑥ じゅんじょをあらわすことばや
「ステップ」をつかって、分かり
やすいせつ明をしよう。

まづ けん玉
つぎに
それから

まつぽっくり
紙コップ
合体

の三つに分かれる

せつ明書を書こう

3年生「食べ物のひみつ教えます」 単元名：れいをあげてせつめいしよう

■この指導案の概要と見所：

本単元において子ども達には、米や大豆など、調理の仕方によって全く異なる食品に変わる食材を題材に、「おいしく食べる工夫（例、蒸してつく、砕いて練って蒸したり焼いたりする、など）」と「どのような食品に姿を変えたのか（例、もち／しょうゆせんべい、など）」について理解するとともに、教科書に記載されていない食材を選択し、自分でも例をあげながら説明することが求められている。本時ではまず、教材文を素材に、「おいしく食べる工夫」と「どのような食品に姿を変えたのか」を簡潔な言葉で抜き出して表にまとめる方法を学ぶ。その後、自分が選んだ食材について資料を調べ、同様に短い言葉で表にまとめるという活動を行っている。

この指導案の大きな見どころは、子どものつまずきの予測を強く意識しながら設計されている点である。子どもが当該学習内容を深く理解するにあたり、どのようなつまずきが生じるのかを予測し、授業設計に生かすことは「困難度査定」（市川、2014）と呼ばれており、教師の授業構想力の重要な一部とされている。本時に即して言えば、具体的には、以下のような点が挙げられる。まず、表にまとめるという活動を子どもに求めた場合には、どうしてもセルの中の言葉が長くなりがちであるという問題意識を授業者はもっている。これを踏まえ、「教師からの説明」において、この点について子ども達が意識化できるように、指導を工夫している。この他に、表のような思考ツールにまとめながら本文の理解を促すことは多く行われているものの、学んだ思考ツール（表）を新しい場面において、子どもたち自身で使えるだけのスキルが必ずしも十分に育成されていないというつまずきの予測を行い、それを踏まえた授業設計になっている。このため、教材文の理解を促すために表を活用するだけでなく、理解確認では、「教師からの説明」では取り上げていない部分を使って表にまとめる体験を行い、さらに理解深化において自分の選んだ食材の本を使って情報を表にまとめる活動を行わせている。新木教諭は、この指導案の一つの見どころとして、理解のための道具として表を導入するだけでなく、自分たちの思考のための道具として表を導入している点にあると述べており、その点を強く意識した指導案であることが伺える。

この他の見どころとして、子どもたちが自発的に図鑑等を調べるだけでは、必ずしも適切な素材にたどり着くとは限らない。そこで、司書教諭と連携しながら、幾つかの素材（牛乳、魚など）について、事前に資料を用意したことが挙げられる。理解深化では、グループ単位で同じ食材を選択し、ラミネートされた資料を囲みながら、グループで一緒に考えられるような仕掛けとなっていた。

■実際に指導した様子を踏まえた、今後の展開にむけた視点：

表のセルに短くまとめるという活動は、一種の抽象化であり、子どもたちにとってかなり難度の高いものであった。また、自分たちの選んだ素材については、司書教諭と連携しながら資料を作っており、図鑑などから自由に選ばせるよりもずっと表にまとめやすいものとなっていた。それでも、子どもたちが情報量の多い図鑑から必要な情報を読み取り、表にまとめることはかなり困難であったことが、子どもたちの様子から見て取れたという。また、牛乳は食品が出来上がるまでの過程が分かりやすく、「おいしく食べる工夫」と「どのような食品に姿を変えたのか」を比較的に見つけやすかったものの、それ以外の素材はまとめるのが難しいなど、選んだ課題による違いも見られたという。

これらの問題点を解決するにあたり、理解深化課題は、牛乳に絞って子ども達に与えるという案もあっただろう。同じ素材であっても、どのような言葉を使ってセルにまとめるのかには班ごとに違いがみられる。そうしたまとめ方の質の違いを全体で共有することによって、セルに短い言葉でまとめられるようになるという本時が目指すもう一つの目標についてもさらに意識化されたのではないかと考える。こうした授業を行った上で、図鑑から自分が選んだ素材で活動をやってみるということは一種の探究活動にもなりうる。本時は習得的な学習の場面であると考えられることから、将来的な探究の素地となる基本的なスキルを獲得する目的で、教師が設定した特定の課題において取り組み、その質にまで深く踏み込むことで将来の学習に備える、といったことも考えられるのではないだろうか。

（文責：植阪友理）

- 1 日時 平成27年11月18日(水) 第2校時
- 2 単元名 れいをあげてせつめいしよう 「食べ物のひみつを教えます」 (本時 2/8)

3 単元の目標

- ・自分の選んだ食べ物について関心をもち、調べてわかったことを説明しようとしている。
【関心・意欲・態度】
- ・食べ物をおいしく食べるひみつを伝えるために、食材の「おいしく食べる工夫」と「どのような食品に姿を変えたのか」を調べ、適切な事例を挙げて説明する文章を書くことができる。 【書くこと】
- ・「中」の部分で、内容のまとまりごとに段落を分け、文章を構成することができる。 【書くこと】
- ・食べ物のひみつを説明するために必要な語句を、辞書を用いて調べることができる。
【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

4 学習計画 (全8時間)

時	○目標 ・主な学習活動 ☆困難度査定	○教えること ・考えさせること	評価
1	○自分の選んだ食材で説明文を書くことを知り、「はじめ」の文章を書くことができる。 ・自分の選んだ食材で説明文を書くことを知り、「はじめ」の文章を書く。 ☆「はじめ」の文章を書くこと。	○「はじめ」の文章の書き方。 ・「はじめ」の文章を書く。	・食べ物をおいしく食べるひみつを伝えるために、食材の「おいしく食べる工夫」と「どのような食品に姿を変えたのか」を調べ、表にまとめることができる。 (ワークシート)
2 (本時)	○資料から「おいしく食べる工夫」と「どのような食品に姿を変えたのか」を見つけることを通して、自分の選んだ食材の「おいしく食べる工夫」と「どのような食品に姿を変えたのか」を調べ、簡潔な言葉で抜き出して表にまとめることができる。 ・自分の選んだ食材の「おいしく食べる工夫」と「どのような食品に姿を変えたのか」を調べ、表にまとめる。 ☆資料から必要な情報を見つけ、簡潔な言葉で抜き出して表にまとめること。	○米の「おいしく食べる工夫」と「どのような食品に姿を変えたのか」を見つけ、表にまとめる。 ・自分の選んだ食材の「おいしく食べる工夫」と「どのような食品に姿を変えたのか」を調べ、表にまとめる。	・自分の選んだ食材の「おいしく食べる工夫」と「どのような食品に姿を変えたのか」を調べ、表にまとめることができる。 (ワークシート)
3	○表をもとにしながら、より分かりやすく伝えるための構成を考え、「中」の文章を書くことができる。 ・「中」を内容のまとまりごとに段落を分け、文章を書く。 ☆内容のまとまりごとに段落を分け、文章を構成すること。	○分かりやすい文章を書くための「中」の文章の構成の仕方。 ・集めた情報をもとに「中」の文章を書く。	・「中」を内容のまとまりごとに段落を分け、文章を構成することができる。 (ワークシート)
4	○「終わり」の部分の書き方を知り、「終わり」の文章を書くことができる。 ・「終わり」の文章の書き方を知り、「終わり」の文章を書く。 ☆「終わり」の文章を書くこと。	○「終わり」の文章の書き方。 ・「終わり」の文章を書く。	・終わりの文章の書き方を知り、「終わり」の文章を書くことができる。 (ワークシート)
5	○「はじめ」「中」「終わり」の文章をつなげ、まとめることができる。 ・「はじめ」「中」「終わり」の文章をつなげ、まとめる。 ☆「はじめ」「中」「終わり」の文章を接続語を使ってつなげること。	○「はじめ」「中」「終わり」の文章のまとめ方。 ・「はじめ」「中」「終わり」の文章をまとめること。	・「はじめ」「中」「終わり」の文章をつなげ、清書することができる。 (ワークシート)

6	<p>○友達と文章を読み合い、助言し合いながら自分の書いた文章を直す。</p> <p>・友達と文章を読み合い、助言し合いながら文章をまとめる。</p> <p>☆分かりやすい文章を書くための工夫を意識しながら、助言する。</p>	<p>○分かりやすい文章を書くための工夫。</p> <p>・友達の助言を参考にして、自分の文章をまとめる。</p>	<p>・分かりやすい文章を書くための工夫を意識して、互いに助言し合うことができる。(発言)</p>
7	<p>○友達と文章を読み合い、分かりやすい文章を書くための工夫を見つけることができる。</p> <p>・友達と文章を読み合い、分かりやすい文章を書くための工夫を見つける。</p> <p>☆分かりやすい文章を書くための工夫を意識しながら、友達と文章を読み合うこと。</p>	<p>○友達と文章を読み合うときの視点。</p> <p>・友達と文章を読み合い、分かりやすい文章を書くための工夫を見つける。</p>	<p>・交流を通して、分かりやすい文章を書くための工夫について、理解を深めることができる。(発言・ワークシート)</p>
8	<p>○分かりやすい文章を書くための工夫や今後どのように生かしていけるか考えることができる。</p> <p>・分かりやすい文章を書くための工夫をまとめ、今後どのように生かしていけるか考える。</p> <p>☆分かりやすい文章を書くための工夫や今後の活用法を考えること。</p>	<p>○分かりやすい文章を書くための工夫。</p> <p>・分かりやすい文章を書くための工夫や今後どのように生かしていけるかを自分の言葉でまとめる。</p>	<p>・分かりやすい文章を書くための工夫について学習したことをまとめることができる。(発言・ノート)</p>

5 本時の活動（2／8）

- (1) 目標
資料から「おいしく食べる工夫」と「どのような食品に姿を変えたのか」を見つけることを通して、自分の選んだ食材の「おいしく食べる工夫」と「どのような食品に姿を変えたのか」を調べ、簡潔な言葉で抜き出して表にまとめることができる。（書くこと）
- (2) 本時のおさえ
【教えること】 米の「おいしく食べる工夫」と「どのような食品に姿を変えたのか」を見つけ、表にまとめる。
【考えさせること】 自分の選んだ食材の「おいしく食べる工夫」と「どのような食品に姿を変えたのか」を調べ、表にまとめる。
- (3) 準備物
ワークシート 食材の本・資料（米、麦、牛乳、魚、とうもろこし、いも） 国語辞典
- (4) 本時の展開

		○学習活動 ・児童のあらわれ	○留意点 ・支援	評価
教える	教師からの説明	1 学習課題をつかむ。 ④ 自分の選んだ食材の「おいしく食べる工夫」と「どのような食品に姿を変えたのか」を調べ、表にしてまとめよう。	○「おいしく食べる工夫」と「どのような食品に姿を変えたのか」を押さえ、全体で表にまとめる。 ○マッピングの資料を用意し、視覚的にも理解を深める。また、マッピングの資料の見方を押さえる。 ○表に書いたことを、言葉で説明する。 ○大切なポイントを押さえる。	
		2 情報の見つけ方や表への書き方を知る。 ○米の「おいしく食べる工夫」と「どのような食品に姿を変えたのか」を見つけ、表にまとめよう。（もち）		
		⑤ ・資料から必要な情報を抜き出すときには、短い言葉でまとめる。 ・「食品」を見つけてから、「おいしく食べる工夫」を探す。		
考えさせる	理解確認 理解深化	3 情報を見つけ、表に書き込む。 ○米の「おいしく食べる工夫」と「どのような食品に姿を変えたのか」を表にまとめて説明しよう。（せんべい）	○マッピングで調べさせる言葉が、多岐にわたるため、食品を「しょうゆせんべい」にしぼる。 ○「おいしく食べる工夫」と「どのような食品に姿を変えたのか」について、個人で表にまとめた後、ペアで説明し合う。 ○「中」の文章を書くためには、表にしてまとめるとよいことを押さえる。 ・資料の見方や表へのまとめ方のわからない児童には、机間指導を行い、資料の見方や表へのまとめ方を確認する。 ○早くできた児童同士で、表をもとに説明し合う。	
		4 自分の選んだ食材の本で、情報を探そう。 ○自分の選んだ食材の本を読んで、食材の「おいしく食べる工夫」と「どのような食品に姿を変えたのか」を調べて、表にまとめてみよう。		
	自己評価	5 学習の振り返りをする。 ⑥ ・魚もいろいろな食べ方の工夫をして、様々な食品に姿を変えていることがわかったよ。 ・表にまとめるときには、文をそのままぬき出すのではなく、必要な情報を短い言葉でまとめるとよいことがわかったよ。	○書く内容の観点として、「食品について」、「表へのまとめ方について」を示し、児童の理解の様子をつかむ。	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> ・自分の選んだ食材の「おいしく食べる工夫」と「どのような食品に姿を変えたのか」を調べ、表にまとめることができる。（ワークシート） </div>
	6 次時への見通しをもつ。 ○次の時間は、今日の表をもとにし、よりわかりやすく伝えるための文章の組み立てを考えて、「中」の文章を書こう。			

(5) 板書計画

食べ物のひみつを教えます

㊦自分のえらんだ食ざいの「おいしく食べる工夫」と「どのような食品にすがたをかえたのか」を調べ、表にしてまとめよう。

◆米の「おいしく食べる工夫」と「どのような食品にすがたをかえたのか」を見つけて表にまとめよう。

米のマツピング資料

㊧しりょうからひつようなじょうほうをぬき出すときには、短い言葉でまとめよう。

おいしく食べる工夫	食品
その形のままたく	
むして、つく	もち
くだいて、ねって、むしたり、ついたり、やいたりする	しょうゆ せんべい

◆自分のえらんだ食材の「おいしく食べる工夫」と「どのような食品に姿を変えたのか」を調べて、表にまとめよう。

おいしく食べる工夫	食品

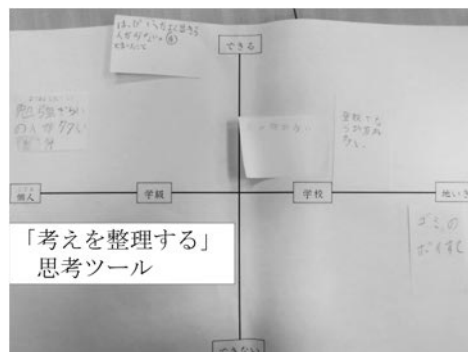
㊨魚もいろいろな食べ方の工夫をして、様々な食品にすがたをかえていることがわかったよ。
表にまとめるときには、文をそのままぬき出すのではなく、必要なじょうほうを短い言葉でまとめるとよいことがわかったよ。

5年生「明日をつくるわたしたち」

単元名：考えを明確にして話し合い、提案する文章を書こう

■この指導案の概要と見所：

本単元は、自分の身の回りの問題をグループで設定し、その解決方法をグループで追求し、最終的に提案書を書いて発表するという流れになっている。テーマはグループで一つであるが、最後は一人一人が提案書を書く計画である。本時は、グループで取り上げる問題（テーマ）を決める場面である。前時までには、自分の意見については、調査なども行いながらもっている。また、架空の問題（傷ついた小鳥の世話）を取り上げて、議論はどのような流れで行うのかについては学んでいる。本時では「意見が対立したときにどうするのか」ということを中心に学ぶ。子どもたちの意見は良さを強調するだけで平行線になりがちで、最終的に声の大きな子の意見が通りがちである。こうしたときに、なぜそのアイデアなのかを説明したり、質問したりすることは、議論の基本であり教科書にも取り上げられている。さらに、複数のアイデアを軸を立てて整理したりすることも議論を整理する上では有効である（教科書では取り上げられていない）。この授業では、教科書にも取り上げられている「なぜそのアイデアなのかを説明する」「質問する」といったポイントに加えて、議論の軸を整理する軸を示した思考ツールを与える（図1参照：縦軸は「できる」「できない」、横軸は「個人」、「学級」、「学校」、「地いき」）。付箋にそれぞれの意見を書いて、それらの軸上に位置付けて議論することで、意外な子どもの意見が採用されたケースもあったという。軸を立てて議論を整理することをの有効性は、学活においてイベントを決める際にも取り入れるなど、連動しながら指導しているとのことであった。



第2部の5年団プレゼン資料より

■実際に指導した様子を踏まえた、今後の展開にむけた視点：

本時では、思考ツールと教科書で示されたポイントをうまく連動させながら議論を深めることが期待されていた。例えば、付箋で思考ツールの上にアイデアを貼った上で、軸には現れていない提案のメリット、デメリットなどを口頭で議論するなどといった姿である。一方で、子どもたちの議論は、どうしても軸だけになりがちで、それだけで判断してしまいがちにあったという。つまり、思考ツールの有効性についてはかなり実感され、全員の意見をうまく組み入れながら意思決定が出来た一方で、思考ツールと、授業で取り上げたポイントをどう連動させて議論を深めていくのかということについては、子どもたち自身が具体的なイメージが持てなかったと思われる。軸で整理した上で、意見交換の際には、そこには表現されていない良い点や気になる点を中心に意見交換し、最終的には総合的に判断するということを、思考ツールの使い方としてはじめに明示することも有効であったかもしれない。

また、今回はどのような軸を立てるのは教師から与えている。一方、社会に出てから期待されることは、自分たちで軸を立てていくことである。今回は、軸を自分たちで抽出するという事にまでは至っていない。ただし、今回は軸を立てて整理することが初めての機会であったので、教師から与えられた軸で整理してみるということであっても十分であっただろう。また、この授業を超えて、他の活動とも連携しながらこうした力を育てているときく。よって、徐々に子どもたち自身でどのような軸を立てればいいのかを考えられるようになるのではないだろうか。そうすることで、「教えて考えさせる授業」が狙っている、自立した学習者を育てることが期待できるだろう。

(文責：植阪友理)

- 1 日時 平成27年 9月16日(水) 第5校時
- 2 単元名 考えを明確にして話し合い、提案する文章を書こう
「明日をつくるわたしたち」

3 単元の目標

- ・自分たちの身の回りにある問題について調べ、解決のための提案書を書くということに関心をもち、問題に関する情報を集めたり、自分の考えをまとめたりしようとしている。(関心・意欲・態度)
- ・話題を決めて、収集した知識や情報を関連づけ、互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うことができる。(話すこと・聞くこと)
- ・自分たちの身の回りにある問題について情報を集め、解決のための提案書を書くことができる。(書くこと)

4 単元構想

(1) 単元観

本単元では、自分たちの身の回りにある問題について考え、それらの問題の現状や解決策などについて、何を提案するかを小グループで話し合い、提案書を書くという活動を行う。単元の重点指導事項としては、提案することを話し合う際の「話すこと・聞くこと」と、提案書を書く際の「書くこと」の二つの指導が単元のねらいとなっている。

「話すこと・聞くこと」の指導では、個々の考えを出し合い、考えをまとめあげるための協議を行う。個々の主張を聞き合い、認め合うとともに、時間内に話す、司会の進行に従うなど、協議を通してよりよい話し合いのための技能を身に付けさせたい。

「書くこと」の指導では、提案書を書く際に、提案を通すためには提案理由、策の具体性や効果など、読み手を納得させる内容や書きぶりが必要であることを理解させたい。

本単元では、話し合う力や提案書を書く力を身に付けるとともに、自分たちの身の回りの問題について考えることを通して、社会への関心を高め、視野を広げたい。そのために、問題に対する具体策については、実現可能なものになるよう指導することが大切である。

(2) 本単元に関する児童の実態(男子19人 女子18人 計37名)

本学級の児童は、国語に苦手意識をもつ児童が多く、一学期に行ったアンケートでは、約7割の児童が「国語は苦手である」と回答している。一学期に行った友達にインタビューをする活動では「何を聞けばよいのか分からない」と言う児童がいた。また「文章を書くことが苦手。」と言い、自分の考えを文章化することを苦手を感じる児童もいる。したがって、児童が苦手意識をもたないよう、「こつ」を教えることや、学習内容を明確にすることを通して、「できる」意識をもたせたい。

普段の授業からペアでの話し合いは多く経験しているが、司会を決めてグループで協議を行うという経験は少ない。つまり、自分の意見を主張することや、他の意見を認めながら時間内に意見をまとめていくことなどのグループ協議の進め方を丁寧に指導していく必要がある。

また、「書くこと」に抵抗があり、個別指導が必要な児童が多くいる。一学期に行った「次への一歩一活動報告書」では、書く内容を可視化したり、項目ごとに書き方を指導したり、グループで書き方を教え合ったりするという活動が効果的であった。したがって、本単元でも内容の可視化、書き方の指導とともに、グループワークを通して情報を共有し、一人一人が提案書を書くことができるように指導をしていきたい。

(3) 学習計画 (全14時間)

時	○目標 ・主な学習活動 ☆困難度査定	「教えること」	「考えること」
1	○自分たちの身の回りの問題について考え、解決のための提案書を書くという活動に関心をもつ。 ・自分たちの身の回りにどんな問題があるか、考える。 ・学習計画を立てる。 ☆自分たちの身の回りにどんな問題があるかを見つけること。	・身の回りの問題とその解決策の例示 ・学習計画	・自分たちの身の回りにどんな問題があるか。
2 3	○自分が取り上げたい問題を決め、話し合いに必要な情報を集めることができる。 ・自分が取り上げたい問題を決める。 ・インターネットや本を使い、話し合うために必要な情報を集める。 ☆適切な課題を見つけること。 ☆必要な情報を集めること。	・課題決定の仕方（話題をいくつかに絞って決めること） ・情報の集め方	・自分の調べたい問題の決定。 ・情報を集めること。
4	○話し合いのポイントを知り、立場を明確にして話し合うことができる。 ・教科書やCDで、話し合いの進め方や大切なことを知る。 ・P.111の議題について、自分の考えを表す。 ☆司会を立て、全員が自分の立場をはっきりさせて意見を言うこと。	・話し合いの進め方	・自分の立場を明確にした意見の言い方。
5 本 時	○それぞれの考えを發表し合い、考えを整理しながら協議することを通して、グループで何を提案するかを決めることができる。 ・前時に学習した話し合いのポイントを確認する。 ・思考ツールの使い方を知る。 ・協議をし、考えをまとめる。 ☆提案するための意見をまとめること。	・グループ協議の進め方 ・意見をまとめるために大切なこと	・グループ協議において、相手の考えを受け止めながら、司会の進行に従って提案することを決めること。
6 7 8	○決まった問題について資料を集め、グループで話し合っ、提案する内容を明確にすることができる。 ・提案する問題について、現状と問題点、解決する方法を書くための資料を集める。 ・グループで集めた情報を共有し、問	・提案書を書くためのポイントに沿った情報の集め方 ・グループでの話し合い方	・書くポイントに沿って情報を集めること。

	<p>題についての理解を深める。 ☆書くポイントに沿った情報を集めること。 ☆実現可能な提案内容にすること。</p>		
9	<p>○提案書の構成を理解することができる。 ・提案書の構成を知る。 ・提案書の冒頭部を書く。 ☆提案内容を要約すること。</p>	<p>・提案書の構成 ・冒頭部の書き方</p>	<p>・自分の提案書の冒頭部の書き方。</p>
10	<p>○提案書の提案理由を書くことができる。 ・提案理由の書き方を知り、書く。 ☆文末表現に注意して書くこと。</p>	<p>・提案理由の書き方</p>	<p>・自分の提案書の提案理由の書き方。</p>
11	<p>○提案書の提案内容を書くことができる。 ・提案内容の書き方を知り、書く。 ☆提案内容を端的に表し、それを具体的に書き表すこと。</p>	<p>・提案内容の書き方</p>	<p>・自分の提案書の提案内容の書き方。</p>
12	<p>○説得力のある提案書になるよう、表現や表記を見直して修正することができる。 ・提案書の推敲をする。 ☆自分の提案書から、推敲する箇所を見つけること。</p>	<p>・推敲の仕方やポイント</p>	<p>・自分の文章をより説得力のあるものにするための推敲。</p>
13	<p>○提案書を読み合い、文章の書き方について感想を交流することができる。 ・完成した提案書を交換して読み合い、感想を交流する。 ☆文章の書き方についての感想をもつこと。</p>	<p>・感想を交流するための、提案書を読むポイント</p>	<p>・他の提案書を読み、文章の書き方についての感想をもつこと。</p>
14	<p>○協議をしたことや提案書を書いたことを振り返り、学習して身に付いたことをまとめることができる。 ・協議のやり方や、提案書の書き方と、それぞれのよさをまとめる。 ☆それぞれの学習で身に付けたことを、言葉でまとめること。</p>	<p>・まとめる際に使うキーワードと、書き方</p>	<p>・それぞれの学習で身に付けたことを文章にまとめること。</p>

(4)「教えて考えさせる授業」を実践するにあたって意識すること

本単元を展開していくにあたり、児童により力をつけるために以下の点を意識して取り組んでいきたい。

- ①児童が「こつ」をつかみやすくするために、思考ツールなどを利用し、考えや学習方法の可視化を行うこと。
- ②児童が「大切」を意識できるよう、黒板や短冊などを利用してポイントを明示しておくこと。

5 本時の活動（5 / 14）

(1) 目標

それぞれの考えを發表し合い、考えを整理しながら協議することを通して、グループで何を提案するかを決めることができる。（話すこと・聞くこと）

(2) 本時のおさえ

【教えること】 グループ協議の進め方と、意見をまとめるために大切なこと。

【考えさせること】 グループ協議において、相手の考えを受け止めながら、司会の進行に従って提案することを決めること。

(3) 準備物

教師…「協議で大切なこと」の掲示、協議用のワークシート。

児童…自分の考えを書いたふせん。

(4) 本時の展開

授業前	○学習活動 ・児童のあられ		○留意点 ☆困難度査定 ・支援 評価
	予習	○前日に教科書の p 106、107 のポイントを読んでくる。	
「教える」	教師からの説明 理解確認	<p>1 めあての確認をする。</p> <p>め グループ協議でそれぞれの意見をまとめて、提案することを決めよう。</p> <p>2 協議の進め方と、話し合いをまとめるために大切なことを知る。</p> <p>○前時の活動をもとに、協議の進め方を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ずつ自分の考えと理由を言います。 ・話し合いの内容を一つにまとめます。 <p>○思考ツールを使い、提案の良いところなどを整理して、折り合いをつける方法を知る。</p>	<p>○教科書 p 106、107 のポイントを拡大掲示して、示しておく。</p> <p>○ワークシートを拡大したものを使用し、考えの整理の仕方を示す。</p>

「考えさせる」	(理解確認) 理解深化	<p>3 一つの例から、提案することについて全体で整理し、意見をまとめる。</p> <p>問題…環境についての問題(+解決策・提案事項) A…登校する道に、ごみが落ちていること。 B…教室にごみがよく落ちていること。 C…袋井の花火大会で、ごみがたくさん落ちていたこと。</p> <p>○例示された問題から、その問題を提案することのメリットとデメリットを整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aは、地域がきれいになるところがいいところです。 ・Bは、すぐに取り組むことができるけど、きれいになるのは教室だけです。 ・Cは、一年に一回しか活動できないと思います。 <p>○全体で確認し、意見をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aなら地域にとっていいし、続けることもできそうです。 <p>4 グループ協議を通して、自分たちの提案事項を決定する。</p> <p>○グループで協議をし、提案することをまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これを提案すると、どんないいことがあるだろう。 ・これを提案しても、実現できないのではないか。 <p>④わたしたちの提案することは、○○です。</p>	<p>○机間指導を通して、理解度を確認していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その問題を提案するとどんないいことがあるのか、また、難しいことは何かを考えるようにする。 <p>○それぞれの意見のよさを認めた上で、より良いものを決定するようにする。</p> <p>☆提案するための意見をまとめることができるか。</p> <p>○表に整理しながら、それぞれの案を分析するようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提案することによる良い点や、難しいことなど、分析の視点を与える。 <p>自他の意見を整理しながら、意見をまとめることができている。(話・聞観察、ワークシート)</p>
		自己評価	<p>5 今日の学習を振り返る。</p> <p>④考えのいいところや難しいところを整理すると、より良い意見にまとめることができる。</p>

(5) 授業の視点

本時のねらいの活動であるグループ協議について、児童が方法を理解し、まとめることができていたか。また、時間は十分に確保されていたか。

6年生「やまなし」

単元名：自分の感じたことを、朗読で表現しよう

■この指導案の概要と見所：

本単元は、「やまなし」の作品を理解したうえで、自分たちが理解した内容をふまえて朗読（中でも群読）で表現することを目指した単元である。「教えて考えさせる授業」では、子どもたちが「理解」した姿を捉える視点として、子ども自身が表現できる姿を重視する。十分な理解を達成したうえで、群読というこれまでにない新しい形で独自の表現へとつなげていこうとする点で、非常に興味深い指導案であろう。

ここでは、「やまなし」の理解を確かなものにする時間（5 時目）と、それを踏まえて群読に入るの最初の授業（6 時目）の2本の指導案を掲載している。この単元構成の特徴として、群読の前提となる「やまなし」の理解を確かなものにする工夫がちりばめられている。例えば、この作品は「5月の幻灯（キーワードはかわせみ）」と「12月の幻灯（キーワードはやまなし）」という2つの場面から構成されており、それぞれモチーフがある。それらの理解を深めるために、「イーハトーブの夢」という賢治の生き方や価値観について述べた教材文も合わせて読んでおり、モチーフの元となるイメージの教示を行っている。5時目では、なぜタイトルを「かわせみ」ではなく、「やまなし」にしたのかという問いを設定することで、賢治の世界観とつながっていることや、2枚の幻灯のうち、「5月の幻灯」は一見きらきらと美しいものの、賢治の世界観とは必ずしも一致していないことをつかませる構造になっている。

これらを踏まえて、6時目では、両方のイメージを踏まえた群読へと進ませている。群読とは、複数の朗読者が、読む声色、速度、人数、言葉さえも変えることで、世界観を表現するものである。子どもたちは、冒頭で群読のための朗読記号を学び、理解確認で短めの文章で体験し、最後、理解深化として実際に5月と12月（授業では、グループごとに5月か12月のどちらかを読む形となった）を読み方をグループで考え、相談し、発表するという流れであった。また、重要なポイントとして、読み方のアイデアが異なった場合には、必ず、なぜそのような読み方が良いと思ったのか、自分の作品理解を説明することを課していた。

「なぜそのように読むのか」、「それはこのような場面だと自分は理解したから」というやりとりを通じて、群読を行わせながらも、作品の理解も深めることが意

図されていることが伺われる。

本時は公開研究授業として実施されているため、筆者も授業に参加し、その様子を見ている。理解深化では、教科書の拡大コピーに群読記号を書き込みながら、どのようによむのかを活発に議論しあう子どもの様子が認められ、一種のアクティブラーニングの様相もよく見て取れた。

■実際に指導した様子をふまえた、今後の展開にむけた視点：

5時目については、モチーフの明示をどの程度行うのかということが今後の検討課題として残った。必ずしも、こちらの読み取り方を押し付けたくないという授業者の意図もあり、子どもたちが「5月の幻灯」と「12月の幻灯」のモチーフを学習する場面では、ヒントとしてこれまでの学習で関連するところが示されたものの、必ずしも5月と12月のモチーフは明示的には教授されなかった。このため、筆者が観察していた授業では、「イーハトーブ」のイメージに近い「12月の幻灯」については比較的よく捉えられていたものの、5月のキラキラしているものの、厳しい世界観については、子どもたちが「きらきらしている、きれい」という言葉が先に立ち、「きらきらしているが、下にいるもの（ここではカニ）は萎縮している姿」という対比的な構造を必ずしも十分には捉えられていなかったように思う。この結果、なぜ「やまなし」がタイトルなのかを考える場面では、一部のグループでかなり悩んでいる様子がみて取れた。モチーフは、これまで発見学習としてつかませてきた部分であるだけに、教えるということに抵抗もあり、やりにくい部分も多々あると思われる。しかし、その先の活動（ここでは群読）を用意しており、理解を表現につなげるというより高いステージを目標としている。高い目標の部分（すなわち、ある一定の理解を踏まえて、どのように表現するのか）という部分で創意工夫、発見的な学習を望むのであれば、モチーフをある一つの解釈として教えて、活動に結び付けてもらう（もちろん、その過程で別の解釈が生じればそれにそった創作活動も十分に認められるべきである）ということも今後検討されても良いのではないかと考えられる。

6時目については、理解確認において、「賢治の伝えたいことがきちんと伝わる読み方」ということを目指し、本文の一部を使いながら、群読の練習を行っている。この際、どうしても描かれている内容の細かい表現を中心に読み方を決める方となってしまう、場面全体の雰囲気意識した上で、読み方と決めるということに結び付けられなかった。この結果、理解深化において5月と12月のどち

らを選び、読み方をグループで考えてみるという場面でも、どうしても個々の言葉など、細かい表現に引きずられてしまった。カニの兄弟が感じている気持ち（恐怖や安心）といったことを意識しながら、細かい表現に加えて全体的なイメージや雰囲気意識しながら群読を行えるようにもっていくことができれば、理解を踏まえた群読という形にさらにつながったのではないかという議論が検討会では出された。

（文責：植阪友理）

- 1 日時 平成27年11月4日(水)
- 2 単元名 自分の感じたことを、朗読で表現しようやまなし
＜資料＞イーハトーヴの夢
- 3 本時の活動(5/8)

(1) 目標 「5月」と「12月」の幻灯を前時までに作成した表を使って違いを確認し、さらに「かわせみ」と「やまなし」を比べることで、賢治が題名を「やまなし」にした意図を自分なりに考えることができる。

(2) 本時のおさえ

【教えること】 「5月」と「12月」の、谷川の様子、かにかの様子、出来事の違い。

【考えさせること】 題名を「やまなし」にした賢治の意図。

(3) 準備物

教師…前時までに授業で作成した「5月」と「12月」のイメージ表

児童…「5月」「12月」で作成したイメージ表

(4) 本時の展開

授業前	○学習活動 ・児童のあらわれ	○留意点 ☆困難度査定 ・支援 評価
予習	○前日に「5月」「12月」を読む。	○家庭で本読み。
教える	教師からの説明 1 めあての確認をする。 ② 「5月」と「12月」の幻灯を比べよう。 ○前時までに、作成してきた「5月」「12月」の表を合わせて比べる。 ・谷川の様子 かにかの様子 出来事	・前時までに作成した、5月と12月の表を並べて比べることできちんと押さえる。 ・「イーハトーヴの夢」の賢治の理想を押さえる。
考えさせる	理解確認 2 「かわせみ」と「やまなし」を比べる。 ○同じ上から谷川に来たものなのに、「かわせみ」と「やまなし」が、かにかの親子にもたらしたものの違いを考えよう。 ・「かわせみ」・・・こわくてするどい恐怖。直線的で危険。怖ろしい死。 ・「やまなし」・・・いい匂いの安心感。曲線的な優しさ。食べられる命のもと。 理解深化 3 題名を「やまなし」にした意図を考える。 ○賢治が題名を「やまなし」にしたのはどうしてだろう。落ちてきたときの音や、様子から考えよう。 ・「やまなし」はトブンってあるから優しい。 ・「かわせみ」は鋭いから怖ろしいものだから。 ・「かわせみ」は命を奪うもので、「やまなし」は命を与えるものだから。みんな幸せになる。 ○「5月」の「12月」の違いをまとめよう。 ③ 「5月」の「かわせみ」は、おそろしいイメージがあるけど、「12月」の「やまなし」は、優しく安心感がある。賢治は自然の恵みがあるあるみんなを幸せにする「やまなし」を題名にしたのかな。	・グループで話し合い、まとめて発表することで考えを共有する。 ・5月と12月のイメージと、2時間目で学んだ賢治の考えていた理想の世界と関連づけて考えると深まることを伝える。 ☆「やまなし」のイメージがわいてこない児童が予想される。「やまなし」が落ちてきたときの音から、「かわせみ」が入ってきたときの音を想像させることで、二つの違いを感じ取らせたい。
自己評価	5 今日の学習を振り返る。 ・「5月」と「12月」の違いが分かった。題名を「やまなし」にした意味も考えた。	○授業の感想を自分の言葉でノートにまとめさせる。

(5) 授業の視点 2つのイメージ表を比べることで、賢治の考えた「やまなし」を読み深め、賢治が題名を「やまなし」にした意図を読み取ることができたか。

1 日時 平成27年11月4日(水) 第5校時

2 単元名 自分の感じたことを、朗読で表現しよう
「やまなし」
＜資料＞イーハトーヴの夢(本時 6/8)

3 単元の目標

- ・物語の情景や言葉の使い方に興味をもったり、作者の考え方や生き方を知ったりしようとしている。(関心・意欲・態度)
- ・作品の特徴や作者の思いを捉え、自分の感じたことが伝わるように朗読することができる。(読むこと)
- ・場面についての描写を捉え、作品の中で使われている表現を味わいながら、優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。(読むこと)
- ・語のリズムや表現のもつ美しさについて関心をもつことができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

4 単元構想

(1) 単元観

本教材は、かのにの親子の目から見た小さな谷川に起こる出来事を描いた宮沢賢治の代表的な作品である。やまなしは、「五月」と「十二月」の二つの幻想世界が対比的に描かれている。谷川の水中に突然飛び込んできた、かわせみへの恐怖、やまなしがもたらす自然の恵みの豊かさ、つまり「生きること」の厳しさや夢・希望があることを読み取れる。また、川の底の様子や出来事を作者なりの描写で「幻灯」として表現したものであるということやそこに使われる造語などの独創的表現、擬態語・擬声語などから、作者自身の内面を映し出した作品として、作者を意識して作品を読むことに適した教材である。

自分が感じたことを朗読で表現するには、まず、優れた表現を味わいながら読むことが大切である。そのために比喻や色彩表現、擬態語などにも着目して読み取らせるようにしたい。それによって自分なりの思いや考えをもてるようになることを考える。次に、読み取ったことをグループで話し合い、自分たちなりにとらえた賢治の考えが聞く人に伝わるような群読を考えさせたい。それによって情景を具体的に思い描いたり、登場人物の気持ちを想像したりしながら、言葉の響きやリズムに特徴がある表現を生かすような群読をすることができると思う。

(2) 本単元に関する児童の実態(男子16人 女子20人)

本学級の児童は、朝読書や家庭での親子読書に進んで取り組んでいる。6年生になり、読書内容も5年生の時と比べて長い文章の本や歴史に関する本を読もうとする子が増えた。しかし、朝読書の様子や読書の記録を見ると、意欲については個人差が大きい。また、事前のアンケートでは、読書が好きな子は36人中19人、好きではない子が15人いた。理由については、好きな子は「長い文章を読むと達成感がある」「いろいろなことが知れて面白い」などの声が挙がる一方、好きではない子は「長い文を読むのが苦手」「文章から作者の思いや考えを想像するのが苦手」などといった真逆の意見が多かった。そのため本単元を学習するにあたり、読書活

動に対する関心を高めるため、長編と短編の宮沢賢治の作品を用意し、事前にふれさせておく。

国語科「河鹿の屏風」では、会話文の話し方や音の強弱など、CDによる範読をまねて楽しく音読をした。また、「せんねんまんねん」の詩の音読では、声の大きさや間など、言葉の面白さを音で表す手立てとして朗読記号を用いた。言葉に着目し、朗読記号を用いた音読の仕方を子どもたちに教え、個人の音読技術を高めてきた。本単元では、言葉に注目させ、表現の効果やイメージを自分なりに膨らませて、「やまなし」で賢治が伝えたかったことは何かが伝わるような群読につなげられるようにしたい。

(3) 学習計画 (全8時間)

時	○目標 ・主な学習活動 ☆困難度査定	◆「教えること」 ◇「考えさせること」	評価規準
予習	<ul style="list-style-type: none"> ・意味調べをさせておく。 ・朗読記号を入れる。 ・宮沢賢治の作品を読む。 		
1	<ul style="list-style-type: none"> ○「やまなし」の全文を読み、朗読(群読)発表会の計画を立てよう。 ・全体を音読する。 ・初発の感想を書く。 ・作品の構成を理解し、朗読(群読)発表会に期待感をもつ。 ☆クラムボンなどの単語にとらわれて2枚の幻灯の意味が考えられない。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆2枚の幻灯という作品の構成。 ◆キーワードになりそうな語。 ◆言葉の意味。 ◇2枚の幻灯「五月」「十二月」の自分なりのイメージ。 	擬態語や擬声語、造語や比喻などの表現に気付きながら「やまなし」を読み、初発の感想を書いている。 (ノート) (関・意・態)
2	<ul style="list-style-type: none"> ○「イーハトーヴの夢」を読み、賢治の生き方や考え方を知ろう。 ・全文を読む。 ・ワークシートにまとめる。 ・賢治の生き方について興味をもつ。 ☆賢治について関心がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆賢治の言葉や行動を年齢別にワークシートを利用してまとめる。 ◇賢治はどんな人だったか。 	「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考え方を知り、自分なりの感想をもっている。 (ノート・発言) (関・意・態)
3	<ul style="list-style-type: none"> ○「五月」の谷川の情景を想像しよう。 ・会話、擬声語、擬態語、比喻表現に見られる言葉の響きやリズムの効果的な朗読を考える。 ☆「かぷかぷ」「つうと銀の色の腹をひるがえして」など、抽象的な言葉からの想像が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆かのにの兄弟の様子、出来事、谷川の様子を色分けする。 ◇擬態語、擬声語、比喻表現の効果的な朗読。 	「五月」の幻灯を読み、描写や言葉の響きやリズムから谷川の情景を想像している。 (ノート・発言) (伝国) 「五月」の幻灯について想像したことが伝わるように朗読している。 (朗読) (読むこと)
4	<ul style="list-style-type: none"> ○「十二月」の谷川の情景を想像しよう。 ・会話、擬声語、擬態語、比喻表現に 	<ul style="list-style-type: none"> ◆かのにの兄弟の様子、出来事、谷川の様子を色分けす 	「十二月」の幻灯を読み、描写や言葉の響きやリズムから谷川の情

	見られる言葉の響きやリズムの効果的な朗読を考える。 ☆「波が青白い火を燃やしたり消したり」「ぼかぼか」など、抽象的な言葉からの想像が難しい。	る。 ◇擬声語、擬態語比喩表現の効果的な朗読。	景を想像している。 (ノート・発言) (伝国) 「十二月」の幻灯について想像したことが伝わるように朗読している。 (朗読) (読むこと)
5	○賢治が題名を「やまなし」にした理由を考えよう。 「五月」と「十二月」の幻灯を前時までに作成した表を使って、場面の中心となる「かわせみ」と「やまなし」を比べることで、賢治が題名を「やまなし」にした意図を自分なりに考える。 ☆比べるところが分からない。	◆対比表を活用して、2枚の幻灯の違いを明確にする。 ◆「イーハトーヴの夢」のまとめを確認する。 ◇賢治が題名を「やまなし」にした理由。	「五月」と「十二月」の2枚の幻灯を比べ、共通点や相違点について、感じたことを交流し、題名「やまなし」について、自分なりの考えをもっている。 (ノート) (読むこと)
6 本時	○賢治が伝えたかったことを朗読(群読)で表現しよう。 ・「五月」「十二月」の場面から、場面を指定して朗読(群読)する。 ☆群読が分からない。 ☆グループで効果的な朗読(群読)の意見が食い違う。	◆朗読(群読)の仕方。(記号を用いて) ◇賢治が伝えたかったことを、朗読(群読)で表現する方法。	情景に合わせた群読の仕方や意見のまとめ方を知り、自分たちなりにイメージを膨らませて賢治が伝えたかったことを群読で表現している。 (観察・話し合いシート・群読の練習) (読むこと)
7	○朗読(群読)発表会を目指し、グループで効果的な朗読(群読)を考えて練習しよう。 ・グループで朗読(群読)を考える。 ☆意見がまとまらない。	◆朗読(群読)記号の確認。 ◆朗読(群読)場面の確認。 ◇賢治の考えが伝わるような朗読(群読)の工夫。	情景や様々な表現と賢治の思いや願いを重ね合わせ、想像したことが伝わるように、群読をしている。 (観察・群読の練習) (読むこと)
8	○朗読(群読)発表会をし、聞き合った感想を互いに交流しよう。 ・順番に発表する。 ☆恥ずかしがって思うような発表ができない。	◆朗読(群読)を聞くときの感想の視点。 ◇「やまなし」で賢治が伝えたかったことは何か伝わる効果的な朗読(群読)方法。	作品の情景や様々な表現と賢治の生き方、考え方を重ね合わせながら想像したことを群読で表現している。 (群読) (読むこと)

5 本時の活動（6 / 8）

(1) 目標

情景に合わせた群読にするために話し合うことを通して、自分たちなりにおさえた賢治が伝えなかったことをグループで群読することができる。

(読むこと)

(2) 本時のおさえ

【教えること】 ☆群読の仕方と記号の使い方。

【考えさせること】 賢治が伝えなかったことを、朗読（群読）で表現すること。

(3) 準備物

教師…対比表、群読する抜粋文（掲示用・児童用ワークシート）、ふせん

(4) 本時の展開

授業前	○学習活動 ・児童のあらわれ		○留意点 ☆困難度査定 ・支援 評価
	予習	○前日に「五月」「十二月」を読む。	○家庭で本読みをする。

「教える」	教師からの説明	<p>1 めあての確認をする。</p> <p>②自分たちなりにとらえた賢治の伝えたいことをグループで群読しよう。</p> <p>2 群読の仕方や記入の仕方などを説明する。 ○P111L4～L6を使って、確認する。</p> <p>【記号】</p> <p>速く _____</p> <p>ゆっくり - - - - -</p> <p>声の大きさ ①②③④⑤</p> <p>人数読み 1 2 3 4 5</p> <p>くりかえし ←————→ </p> <p>やまびこ </p> <p>・鉄色に変に底光りしては恐ろしくて冷たいイメージだからゆっくり読む。</p> <p>・くちやくちやには、魚が美しい情景を壊していくから、忙しく人が重なるように読みたい。</p>	<p>○「五月」かわせみの怖さ、「十二月」やまなしの恵みなどから、賢治の伝えたいことをおさえる。</p> <p>☆「五月」の一文を例にし、情景からイメージされることと、どのような読み方によればよいか群読の仕方を教えるとともに、記号の入れ方を確認する。</p> <p>☆グループで効果的な群読の仕方が食い違った場合、根拠をもとに読み方を決定していくことを確認する。</p>
-------	---------	--	---

	理解確認	<p>3 教師とともに、本文の一部を使って理解確認をする。</p> <p>○賢治の伝えたいことがきちんと伝わる読み方をおさえる。(P114L5～L6 を用いて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・怖い気持ちで、ゆらゆらしているんだから、速く読むとおかしい。 ・魚がカワセミに連れて行かれて静かになったし、一瞬のことでかにの兄弟が怖くなってしまったから、1人で小さく読んだ方がいいよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージに合わない記号を入れて群読させ、聞く人に伝わる読み方を考えさせる。 ○子どもが読みに疑問を抱かなかつたら、この読み方でいいのか問う。
「考えさせる」	理解深化	<p>4 理解深化の課題に取り組む。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「五月」と「十二月」の文を群読してみよう。</p> </div> <p>○グループで考えを出し合いながら。実際に2つの文を読んでみる。</p> <p>【五月】 P112L3～P112L7 (1～3班) 【十二月】 P116L11～P117L2 (4～6班)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「そのときです。」は、直前に…が入っているからいきなりという感じを出して読もう。 ・やまなしは丸い優しいイメージだからトブンは、ドブンより小さい音のイメージがする。2、3人で少し声をずらして読むと温かい感じがするね。 <p>○発表する。 工夫するところを発表してから群読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「～を表すために…に気がつけました。」 ・「～を表すために…を工夫しました。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の内容や賢治の考えをもとに、助言する。 ○子ども達が考えたり、話し合ったりする時間を十分にとる。 ・活動が進まないグループは、前時の「五月」「十二月」のイメージに着目させ、読みに生かすよう、助言する。 ・話し合いの経緯が分かるようにふせんを貼り、まとめさせる。 ○記号の工夫ではなく、読みの工夫がされているところを称揚する。
	自己評価	<p>5 今日の学習を振り返り、理解度を確認する。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>㊦友達と考えながら、声の強弱や間の取り方、読む速さなどに気をつけて読んだ。～のときは一人でなく、友達と声をそろえたり、～のときにずらしたりして言うことで、こわい感じが表せ、賢治が伝えたい「生きることの厳しさや希望」を意識できた。改めて「五月」と「十二月」の川の様子が違うことに気づいた。</p> </div>	<p>○どこをどのようにくふうしたのか、群読をやってみての感想を自分の言葉でノートにまとめさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>情景に合わせた群読にするために話し合うことを通して、自分たちなりにイメージを膨らませて賢治が伝えたかったことを群読で表現することができたか。 (授業観察、話し合いシート、群読の練習)</p> </div>

(5) 授業の視点 「教えて考えさせる授業」に関わる視点を提示する。

文意を自分たちなりにおさえた読みは、賢治が伝えたかったことを群読で表現することにつながっていたか。

第2部 プレゼンテーション集

国語科における「教えて考えさせる授業」に挑戦

1年生2学期の取り組み

1学期の取り組みより・・・

成果

- ・「教える」→「考えさせる」の手順を踏んだことにより、子どもたちが意欲的に学習に取り組めるようになった。

●しかし、まだ十分ではない部分も・・・

課題

- ①説明時にキーワードとなる言葉を使えるよう
うな、本文の提示の仕方。
- ②ペアで交流する際の見取りの仕方。

改善するために・・・

- ①大切な言葉を短冊にし、黒板に提示する。
- ②隣の席の子だけでなく、グループでも説明し合う場をつくる。

2学期の取り組み・・・

☆くらべてよもう

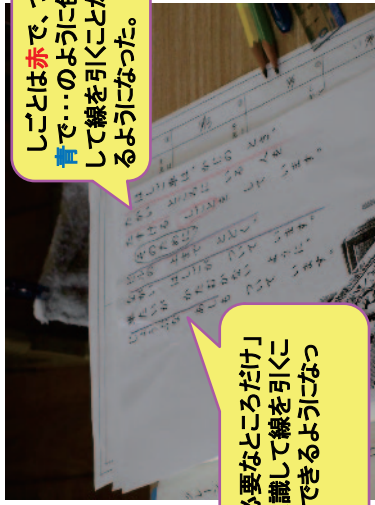
「じどう車くらべ」

付けたい力

- ・事柄の順序を考えながら内容の大体を読み、本や文章から大事な言葉や文を書き抜くことができる。
- ・事柄の順序に沿って、簡単な構成を考え、文と文の続き方に注意しながら、つながりある文章を書くことができる。

実践

① 大事な言葉に線を引く。

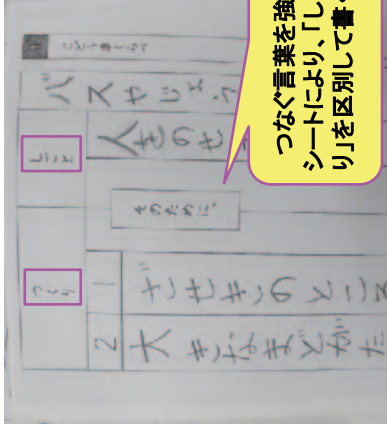


しごとは赤で、つくりは青で…のよように色分けして線を引くことができるようになった。

「必要などころだけを意識して線を引くことができるようになった。」

実践

② つなぐ言葉を意識したワークシートの活用。

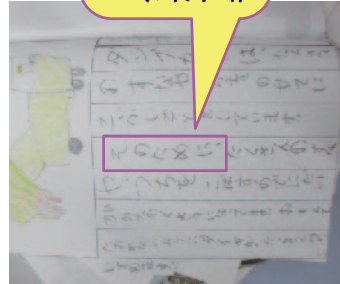


つなぐ言葉を強調したワークシートにより、「しごと」と「つなぐ」を区別して書くことができました。

実践

③ つなぐ言葉を意識しながらつながりのある文章を書く。

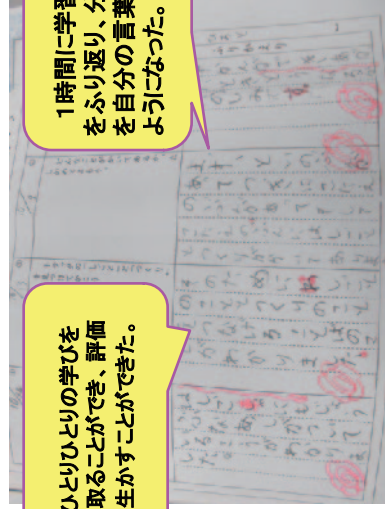
じどう車ずかん



キーワードがないワークシートでも、自分で「そのために」という言葉を入れて、つながりのある文章を書けるようになった。

実践

④ 1時間ごとのふりかえり。

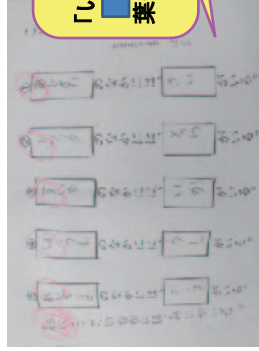


ひとりひとりの学びを見取ることができ、評価に生かすことができました。

1時間に学習した内容をふり返り、分かったことを自分の言葉で書けるようになった。

☆普段の授業での取り組み

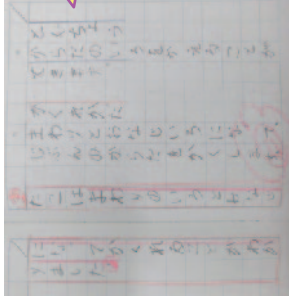
- ①「ことばを見つけよう。」
- ・〇〇がある。→いきもの
 - ・〇〇がある。→もの。
- 教える



「いる」「ある」をヒントに
 〇の中に入る言葉
 を考えることができました。

☆普段の授業での取り組み

- ②うみのかくれんぼ
- ・場所、体の特徴、かくれ方 → 教える



場所、体の特徴、かくれ方、を分けて読み取ることができました。

☆普段の授業での取り組み

- ③しらせたいな、見せたいな

・ちくちく



・さわるとちくちくしています。
 メモ(言葉)を文にする方法を教える。

※書いた文章を友だちと交流する。



☆実践してみても見えてきたこと

- 「教える」ことで本時の学習内容が分かり、見通しをもって学習に取り組める子が多かった。
- ペア学習を行うことで、1時間の中で全員が考えたり、発言したりする機会をつくることができた。
- 「説明」「確認」「深化」「まとめ」の全てを1時間の中に収めることが難しい。
- 深化問題の設定が難しい。

国語科における「教えて考えさせる授業」に挑戦

2年生

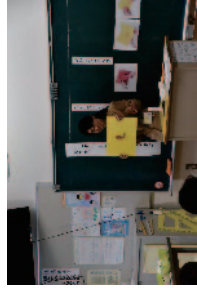
<読むこと><書くこと> せつめい書を書こう

せつめいのしかたに気をつけて読もう。

「しかけカードの作り方」

分かりやすくせつめいしよう。

「おもちゃの作り方」



単元計画

付けたい力

「しかけカードの作り方」「おもちゃの作り方」

○おもちゃの説明書を作ることに興味をもって文章を読み、説明のしかたのこつを生かして分かりやすく作り方を説明しようとしている。
(関心・意欲・態度)

◎説明書を書くために必要な事柄を集め、内容のまとまりに気をつけて、作り方の手順を絵と対応させながら文のつながりを意識して書くことができる。

○文章の中で使われている分かりやすい説明の仕方を読みとることができる。
(読むこと)

○作り方の手順に沿って、順序を表す言葉を用いることができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

せつめい書を書こう

けん玉の作り方

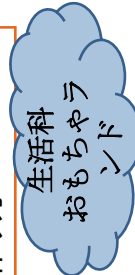
①

- ・ 順序を表すことば
- ・ まとまり

②

- ・ 数字・写真・絵

しかけカードの作り方



おもちゃの説明書

授業時間における「教えて考えさせる授業」

<本時の目標>

写真を見ながらしかけカードの作り方を説明する活動を通して、しかけカードは大きく3つのまとまり(ステップ)できていることとらえたり、順序を表す言葉(接続語)を用いて説明したりすることができるようになる。(読むこと)

<教える>

前時のこつに加え、大きなステップに分けて説明すること。

<考えさせる>

どんな順序を表す言葉(接続語)を使うか選ぶこと。

①ステップ(まとめり)の確認

②ペアで説明

③全体に説明

実践してみても

○しかけカードの作り方とおもちゃの作り方を平行して取り扱うことで、しかけカードの作り方を的確に読み取り、自分のことまで説明することができた。

●1学期の反省から「教える」時間を短くしたために、ステップ(まとめり)に分けることの良さが十分に理解できていない子がいた。

困難査定が甘かった

しかし、教えない限り、子どもたちの語彙は増えない。

おもちゃのせつめい書や日常生活の中でステップを使うが出てきた。

子どもの書いたせつめい書

3年生

1学期の段階での成果と課題

成果

- ・ 日常の会話の中で、言葉が足りないときに「よい聞き手になろう」を思い出し、と声掛けをすることができた。
- ・ 児童も自分の話が相手に伝わりにくいと、何が足りないのか振り返って考える場面が見られた。

課題

- ・ 分かりやすく伝えるために言葉を補おうとする意識はできたが、定着したわけではない。継続した指導が必要である。

3年生 2学期の実践

～国語科～

研究授業の単元で実践したこと

〈書くこと〉

単元名

れいをあげてせつめいしよう

教材名

「食べ物のひみつを教えてください」



〈付けたい力〉

- ・ 自分の選んだ食べ物について関心をもち、調べてわかつたことを説明しようとしている。【関心・意欲・態度】
- ・ 食べ物をおいしく食べるひみつを伝えるために、食材の「おいしく食べる工夫」と「どのような食品に姿を変えたのか」を調べ、適切な事例を挙げて説明する文章を書くことができる。【書くこと】
- ・ 「中」の部分で、内容のまとまりごとに段落を分け、文章を構成することができる。【書くこと】
- ・ 食べ物のひみつを説明するために必要な語句を、辞書を用いて調べることができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事

〈学習計画（全8時間）〉

時	○目標 ☆困難度査定	○目標 ☆「はじめ」の文章を書くこと。	○教えること 考えさせること ・ 「はじめ」の文章の書き方。 ・ 「はじめ」の文章を書く。
1	○自分の選んだ食材で説明文を書くことができ 知り、「はじめ」の文章を書くことができる。	☆「はじめ」の文章を書くこと。	○「はじめ」の文章の書き方。 ・ 「はじめ」の文章を書く。
2 (本時)	○資料から「おいしく食べる工夫」と「どのような食品に姿を変えたのか」を見つけて、自分の選んだ食材の「おいしく食べる工夫」と「どのような食品に姿を変えたのか」を調べ、簡潔な言葉で抜き出して表にまとめることができる。 ☆資料から必要な情報を見つけ、簡潔な言葉で抜き出して表にまとめること。	○米の「おいしく食べる工夫」と「どのような食品に姿を変えたのか」を見つけて、表にまとめる。 ・ 自分の選んだ食材の「おいしく食べる工夫」と「どのような食品に姿を変えたのか」を調べ、表にまとめる。	○米の「おいしく食べる工夫」と「どのような食品に姿を変えたのか」を見つけて、表にまとめる。 ・ 自分の選んだ食材の「おいしく食べる工夫」と「どのような食品に姿を変えたのか」を調べ、表にまとめる。
3	○表をもとにしなが、より分かりやすく伝えるための構成を考え、「中」の文章を書くことができる。 ☆内容のまとまりごとに段落を分け、文章を構成すること。	○表をもとにしなが、より分かりやすく伝えるための構成を考え、「中」の文章を書くことができる。 ☆内容のまとまりごとに段落を分け、文章を構成すること。	○分かりやすい文章を書くための「中」の文章の構成の仕方。 ・ 集めた情報をもとに「中」の文章を書く。
4	○「終わり」の部分の書き方を知り、「終わり」の文章を書くことができる。 ☆「終わり」の文章を書くこと。	○「終わり」の部分の書き方を知り、「終わり」の文章を書くことができる。 ☆「終わり」の文章を書くこと。	○「終わり」の文章の書き方。 ・ 「終わり」の文章を書く。


5	○「はじめ」「中」「終わり」の文章をつなげ、まとめることができる。 ☆「はじめ」「中」「終わり」の文章を接続語を使ってつなげること。	○「はじめ」「中」「終わり」の文章のまとめ方。 ・「はじめ」「中」「終わり」の文章をまとめること。
6	○友達と文章を読み合い、助言し合いながら自分の書いた文章を直す。 ☆分りやすい文章を書くための工夫を意識しながら、助言する。	○分りやすい文章を書くための工夫。 ・友達の助言を参考にして、自分の文章をまとめる。
7	○友達と文章を読み合い、分りやすい文章を書くための工夫を見つけることができる。 ☆分りやすい文章を書くための工夫を意識しながら、友達と文章を読み合うこと。	○友達と文章を読み合うときの視点。 ・友達と文章を読み合い、分りやすい文章を書くための工夫を見つける。
8	○分りやすい文章を書くための工夫や今後どのように生かしているか考えることができる。 ☆分りやすい文章を書くための工夫や今後の活用方法を考えること。	○分りやすい文章を書くための工夫。 ・分りやすい文章を書くための工夫や今後どのように生かしているかを自分の言葉でまとめる。

本時の活動 (2 / 8)

(1) 目標
資料から「おいしく食べる工夫」と「どのようない食品に姿を変えたのか」を見つけて、自分の選んだ食材の「おいしく食べる工夫」と「どのようない食品に姿を変えたのか」を調べ、簡潔な言葉で抜き出して表にまとめることができる。(書くこと)


(2) 本時のおさえ
米の「おいしく食べる工夫」と「どのようない食品に姿を変えたのか」を見つけて、表にまとめる。

【考えさせること】 自分の選んだ食材の「おいしく食べる工夫」と「どのようない食品に姿を変えたのか」を調べ、表にまとめる。



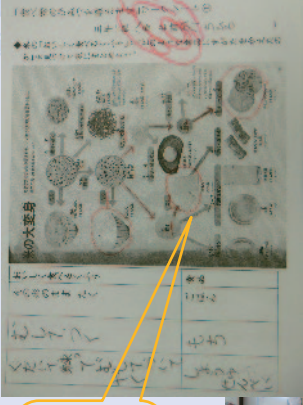
〈教師からの説明〉

マツピングの資料から、米の「おいしく食べる工夫」と「食品」を見つけて、表にまとめる。




〈理解確認〉

個人で表にまとめた後、ペアで説明し合い、確認する。

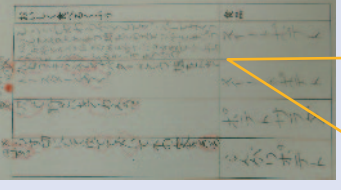


〈理解深化〉

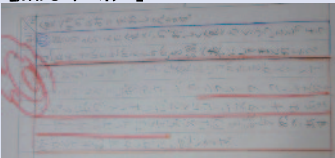
自分の選んだ食材の本や資料から「おいしく食べる工夫」と「食品」を見つけて、(グループで同じ食材を扱う)



「クイット」

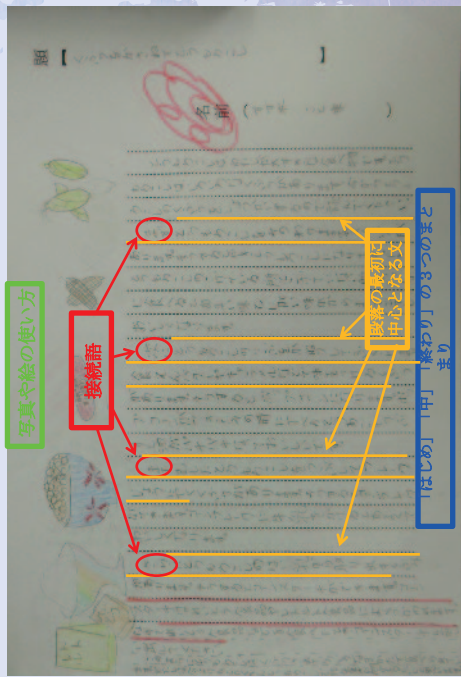


授業のふり返り



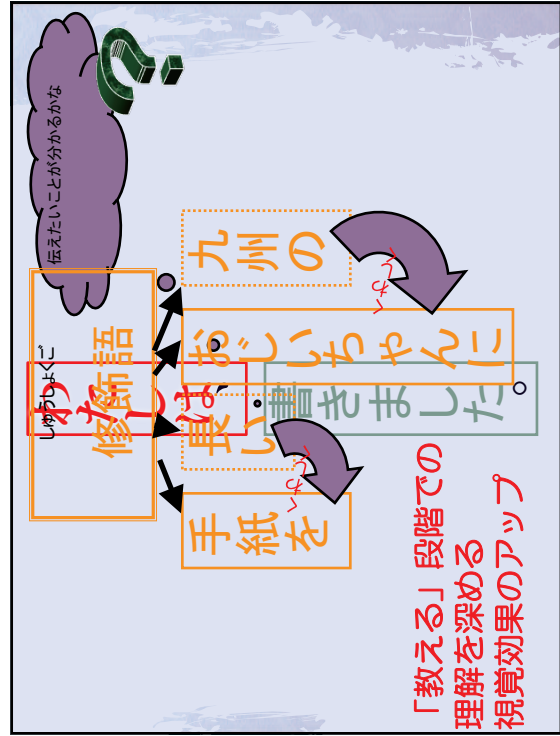
子どもたちは、自分の選んだ食材について、意欲的に調べる事ができた。しかし、資料から必要な情報を短い言葉で抜き出すことが困難であった。そのため、次の時間には必要な情報に赤で、を付けた。

〈子どもの書いた説明文（食材：とうもろこし）〉

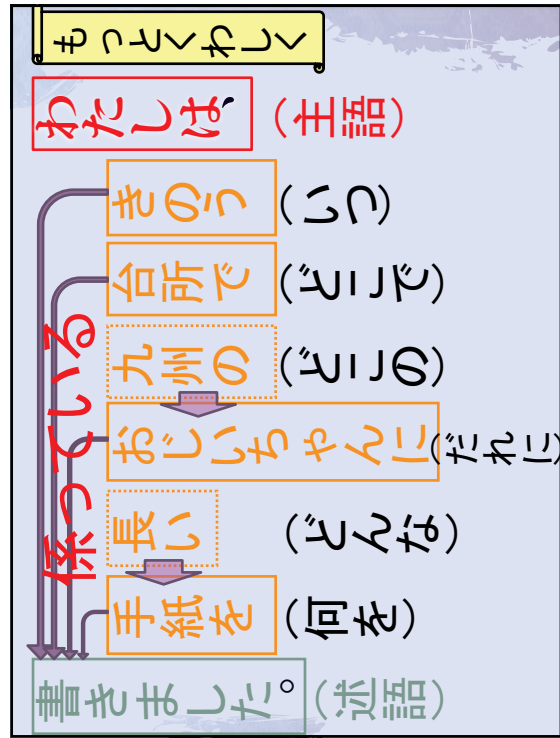


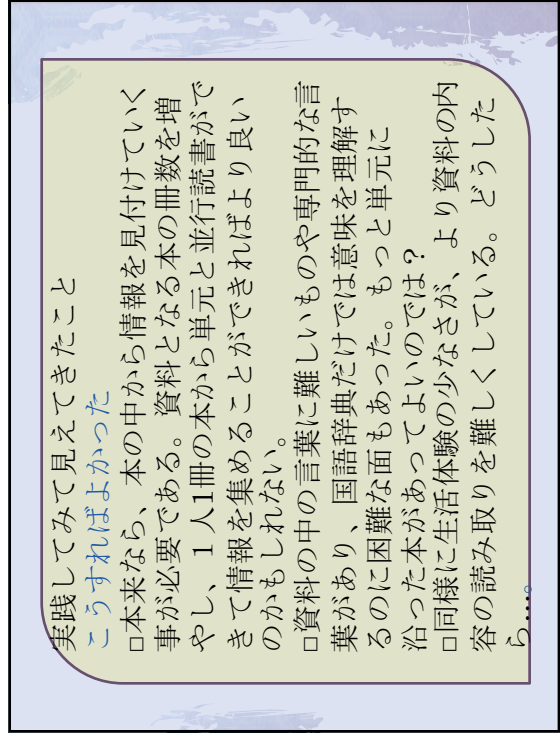
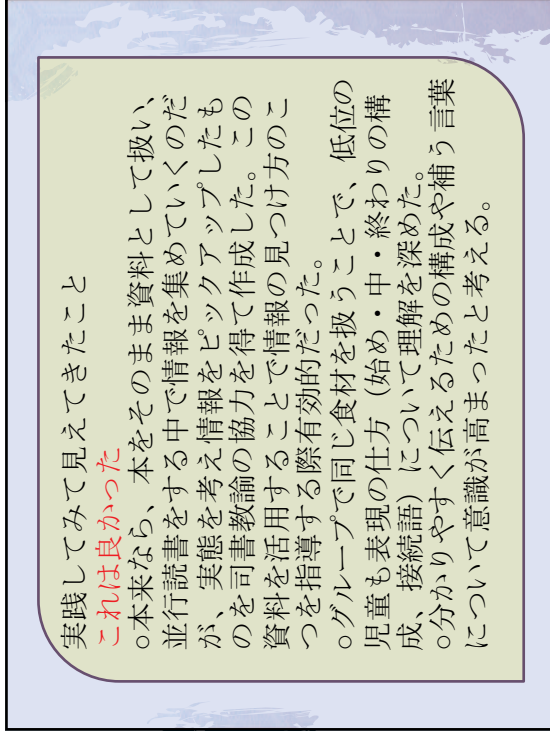
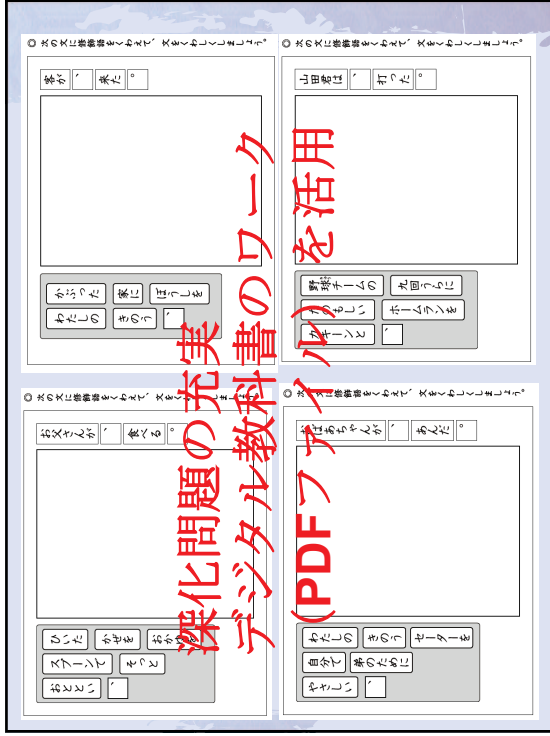
普段の授業で実践したこと

- ◆ 修飾語の単元で
 - ・ 分かりやすく伝えるために言葉を補おうとする意識はできたが、定着したわけではない。継続した指導が必要である。
- ◆ 修飾語を意識させることで、より分かりやすい文章にできる。
 - 「教える」段階での理解を深める視覚的効果のアップ
 - 深化問題の充実



「教える」段階での理解を深める視覚効果のアップ





- 本来なら、本をそのまま資料として扱い、並行読書をする中で情報を集めていくのだが、実態を考え情報をピックアップしたものを司書教諭の協力を得て作成した。この資料を活用することで情報の見つけ方のコツを指導する際有効的だった。
- グループで同じ食材を扱うことで、低位の児童も表現の仕方（始め・中・終わりの構成、接続語）について理解を深めた。
- 分かりやすく伝えるための構成や補う言葉について意識が高まったと考える。

- 本来なら、本の中から情報を見付けていく必要がある。資料となる本の冊数を増やし、1人1冊の本から単元と並行読書ができて情報を集めることができればより良いのかもれない。
- 資料の中の言葉に難しいものや専門的な言葉があり、国語辞典だけでは意味を理解するのに困難な面もあった。もっと単元に沿った本があったてよいのでは？
- 同様に生活体験の少なさが、より資料の内容の読み取りを難しくしている。どうしたら

国語科における 「教えて考えさせる授業」に挑戦

2学期の取組: 4年生

- 読んで考えたことを話し合おう
「ごんぎつね」<読むこと>
- 説明のしかたを工夫して、分かりやすく伝える文章を書こう
「クラブ活動リーフレット」を作ろう<書くこと>
- 心に残ったことを感想文に書こう
「プラタナスの木」<読むこと>

1学期の実践から

成果と課題

- 書くときのこつを実感
 - ・ 思いっくままにメモができた。
 - ・ 内容の取捨選択がしやすかった。
 - ・ 付箋を使うことで、柱立てがやりやすくなった。
- △ 大まかに捉えることの難しさ
 - ・ 思いついた文章をそのまま書いてしまう。
 - ・ メモの取捨選択が難しかった。

改善点

<書くこと>
・ メモの取り方や全体を大まかに捉える学習活動の継続
※「自分の考えを伝えるには7月の単元」では、意見文の構成メモとして使用

分かったこと

- 1 まず、「教えること」と「考えさせること」の2段階で
- 2 「教える」は、活動を進めるための「こつ」の提示
- 3 「こつ」を意識することは＝理解が進むこと
- 4 よい例と悪い例の提示

2学期の実践

「ごんぎつね」

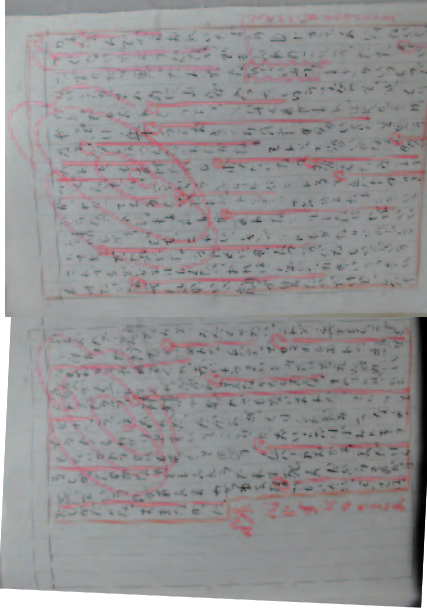
- **言語活動**
物語を読んで考えたことを話し合う
- **身に付けたい力**
文章を読んで、考えたことを発表し合い、互いの考えの共通点と相違点を考えながら話し合うとともに、一人一人の感じ方の違いに気づくことができる。
- **単元を貫く言語活動**
グループで自分の考えを出し合い、自分や友達の意見をまとめながらグループの話し合いの経過を報告する。

「ごんぎつね」

- **単元計画(全14時)**
第1次 感想・見直し
第2次 読み取る。
第3次 最終場面後の気持ち
第4次 100字程度の感想
- 第2次の授業の流れ
 - ・ 教えること
ごんの行動
 - ・ 考えさせること
ごんの思ったこと
 - ・ まとめ
思ったことをまとめさせる。(ノート)

「ごんぎつね」

- 児童のノートの変化



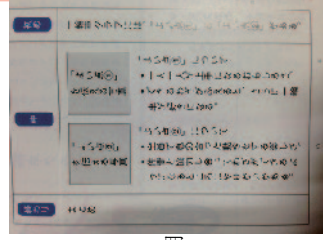
2学期の実践II

「クラブ活動リーフレット」を作ろう

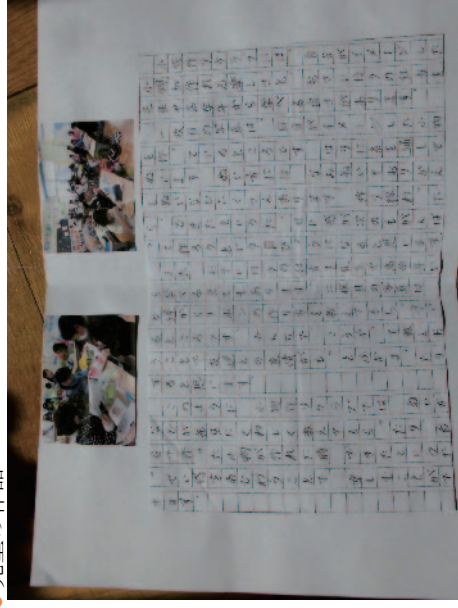
- **言語活動**
写真と文章を組み合わせて、リーフレットを作成する。
- **身に付けたい力**
書くこととすることの中心を明確にして、写真と文章を対応させながら、段落相互の関係に注意して文章を書くことができる。
- **単元を貫く言語活動**
クラブ活動リーフレットを作る。

「クラブ活動リーフレット」を作ろう

- **単元計画(全8時)**
第1次 相手と内容
第2次 文章構成と文章作成
第3次 リーフレット作成
- **単元全体で意識したこと**
 - 教えること
 - ① **文章の組み立て**
 - ② **内容に見合った写真の選択**
 - ③ **前単元「アップとルーズで伝える」活用**
 - 考えさせること
 - リーフレットの作成




- 児童の作品



2学期の実践Ⅲ

プラタナスの木

- **言語活動**
心に残ったことを感想文に書く
- **身に付けたい力**
読んで考えたことを発表し合い、感じ方の違い気付くことができる。
- **単元を貫く言語活動**
感想文を書く。



プラタナスの木

単元計画(全8時)


- 第1次 感想・見直し
- 第2次 読み取り
- 第3次 感想文

第2次の授業の流れ

- 教えること
登場人物とプラタナスの木のつかいかわり
- 考えさせること
プラタナスの木への思いとその移り変わり

第3次の授業の流れ

- 教えること
感想文の組み立て(始め・中・終わり)と「自分の体験」



実践をしてみよう


○ **成果と課題**

成果

- ・「教えること」「考えさせること」をはっきりさせると・・・
- ・児童が「こつ」を・・・
- ・「話す・聞く」や「書く」の領域では・・・

課題

- ・45分で
- ・学習内容を理解させるための効果的な手法
- ・善段の授業に取り入れて
- ・「読む」領域では



国語科における 「教えて考えさせる授業」に 挑戦 5年生の実践

＜書くこと＞（1学期の実践）

事実と考えを区別して、活動を報告する文章を書こう

「次への一歩－活動報告書」

＜話すこと・聞くこと＞（2学期の実践）

考えを明確にして話し合い、提案する文章を書こう

「明日をつくるわたしたち」

1学期実践からの改善点

・グループ活動を効果的に取り入れていく。

・1学期の単元では、書くための材料集めをグループで行ったことで、書くことに苦手意識がある子どもも、思考が整理され、書くことができた。

・2学期の「明日をつくるわたしたち」では、3つの困難な場面が予想される。

- ①学習課題を戻す。
- ②提案書に書く内容を決める。
- ③提案書の裏付けとなる資料を各自集め、精査する。

グループ協議の方法を指導し、思考を広げたり深めたりする手立ての1つとしていきたいと考えている。

そこで

①学習課題を見つける

自分たちの身の回りの問題を見つけるために教師から例を挙げたり、全体で問題を出合ったりした。



自分たちの身近な問題にはどんなものがあるのかを一人一人が考え、意見交換することができた。

②提案書に書く内容を決める

- ・グループ協議で書く内容を決めた。協議のときに注意することや進行の仕方などを指導した。
- ・思考ツールを使って、考えや学習方法の可視化を行った。

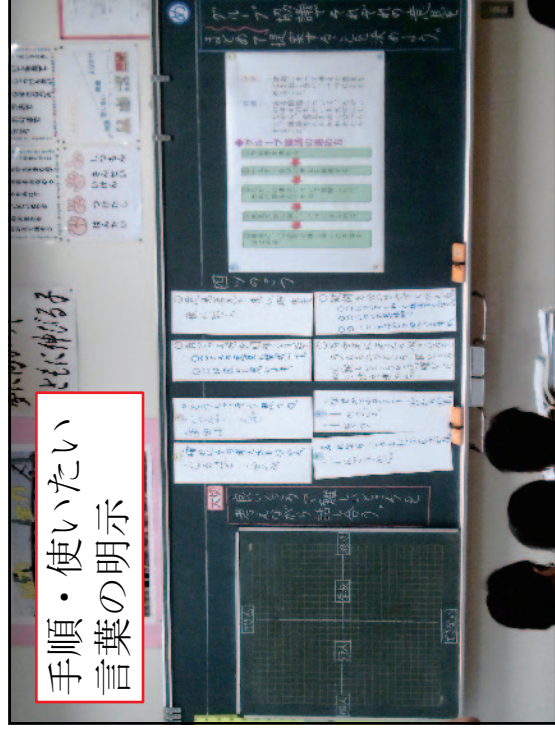
教えることと考えさせること

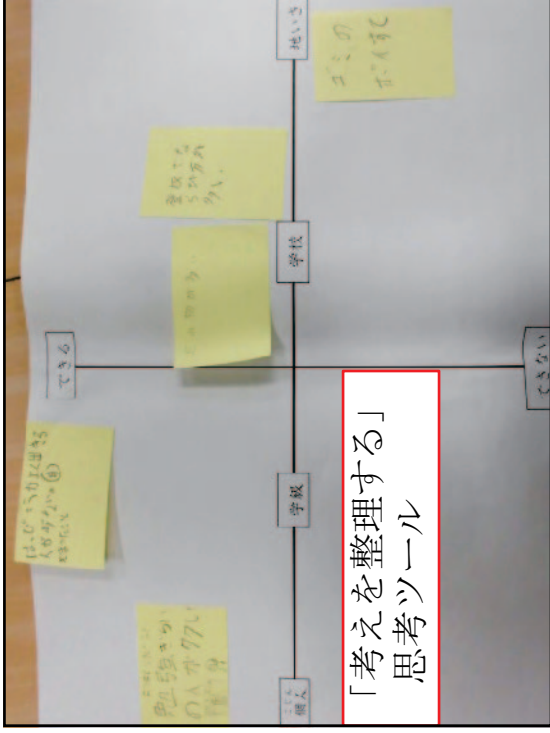
教えること…グループ協議の進め方と、意見をまとめるために大切なこと。

- 協議を進める手順(自分の意見を言う→質問し合う→友達の考えに対する自分の意見を言う→まとめる)
- それぞれの提案の良いところや、実現可能かを整理しながら考えること。

考えさせること…グループ協議において、相手の考えを受け止めながら、司会の進行に従ってグループで提案する内容を決めること。

手順・使いたい言葉の明示





- ・グループ協議の中で、自分や友達の考えが整理され、提案する内容を分かりやすく話し合うことができた。
- ・協議を行ったことにより、それぞれの考えの良いところや問題点を意識することができた。

③提案書の裏付けとなる資料を各自集め、精査する。

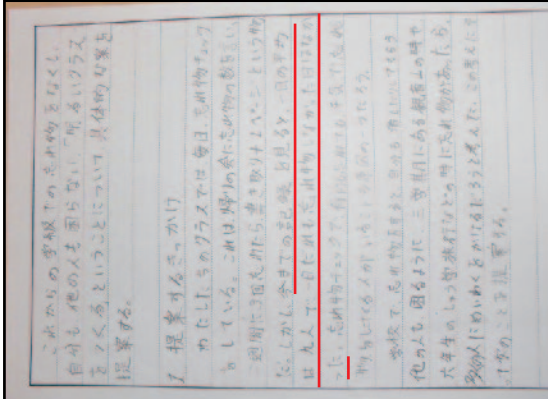
- ・課題に合った資料の集め方を示した。
(インターネット、本、アンケート、インタビューなど)
- ・グループで必要な資料を集めた。

➡

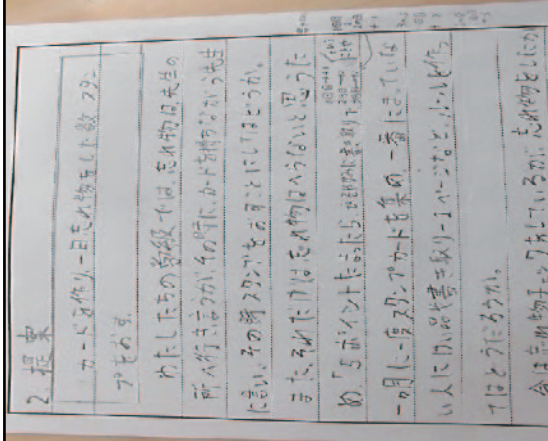
- ・アンケート調査を中心に、現状や問題点を明確にするために必要な資料を集めることができた。

完成した提案書

集めた資料（アンケート結果）の活用



課題を解決するための具体策



普段の国語の授業で実践したこと

大造じいさんとガン

…並行読書を行い、本の魅力をカードにまとめる活動

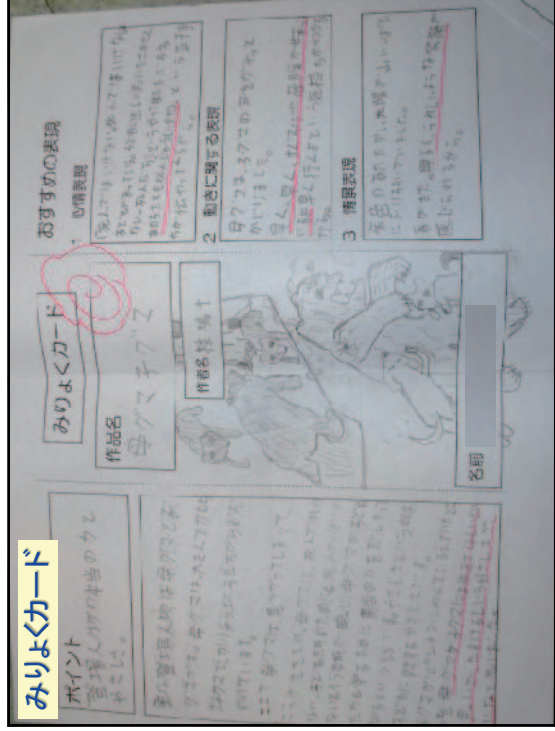
○教える

教科書教材で、良いところの見つけ方、まとめ方をおさえる。

○考えさせる

自分の選んだ本から、その物語の良さを発見し、まとめる。

みりよくカード





実践してみえてきたこと

- ・グループ協議の手順だけでなく、**使いたい言葉も例示**したことで、子どもが協議のイメージをもって活動することができた。
 - ・**思考ツール**を利用することにより、考えが視覚化された。子どもたちが考えを整理しやすくなり、意見をまとめることができていた。
- ↓
- 「教える」ときに、子どもたちが
イメージしやすい手立ての選択**
- ・**自分の言葉で語らせる難しさ**…マニュアルに頼りすぎても、自分の力にならない。どこまでを教えるかの見極めと、**教師がねらいをはっきりもつ**ことが大切。

国語科における「教えて考えさせる授業」に挑戦

6年生

読む力をつける

【1学期の成果】

- グループの討論会を数多くしたこと、司会の仕方・話し合いのメモのとり方・発表の仕方などが身に付いた。
 - 相手の意見を聞いて、自分の意見と比べることができるようになった。
- 【課題】
- ▲全体の場になると、失敗を恐れたり、恥ずかしがったりして発表できない。
 - ▲理解できている子が、全体の場で発言しないため、全体の深まりに欠ける。
 - ▲話すことはできるようになったが、書くことに苦手意識を感じている子がいる。

【2学期に行った授業】

- 「せんねん まんねん」9月
- 「やまなし」11月
- 「狂言 柿山伏」11月

研究授業の実践「やまなし」を主体として」

★話すことが好きなので、グループで群読をする目的をもって単元構成を考えた。

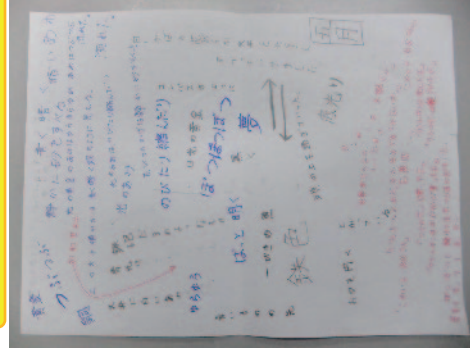
【成果】

- 読み取りも群読をする目的があるので、意欲的に読み取ろうとした。
 - イーハートヴの夢で、宮沢賢治について年表形式でまとめたことにより、宮沢賢治についての理解が深まった。
 - 「せんねん まんねん」での朗読を生かし、「やまなし」の文に一人でスムーズに朗読記号を入れることができた。
 - グループの群読では、どのように読むと効果的なのか、自分の考えをもって群読の話し合いに対して積極的に取り組む子が多くなった。
 - 群読発表会では、五月と十二月を対比して、読み取ったことを生かした群読ができた。
- 【課題】
- ▲「イーハートヴの夢」の読み取りを1時間で計画した。年表にしたことは分かりやすかったが、実質2時間かかった。
 - “対案策（1時間で終わるためには）”
 - ・年表のワークシートを工夫（穴あき形式）→そこから賢治像を考えさせる
 - ▲グループ活動で、強く立場を主張する子に負けてしまい、良い意見を持っている意見が出せず、あらぬ方向に読み取ってしまう。

実践して見えてきたこと

- ・修学旅行で、柿山伏を教材に狂言とは何か、どのような表現をするのかなどを学んだ上で「附子」を鑑賞した。狂言を鑑賞した後の質問で、声の出し方について質問した子がいた。群読をしてきたばかりなので、声の出し方に興味を持っていた。
- ・狂言師に声の出し方を教えていただいた際、多くの子ども達が声の調子を真似て、恥ずかしくなることなく表現していた。
- ・NHKのアプレコナーで、映像と照らし合わせた声の出し方を意識しながら楽しんで行っていた。
- ・表現しようとする意欲が高まると、表現の仕方も向上した。

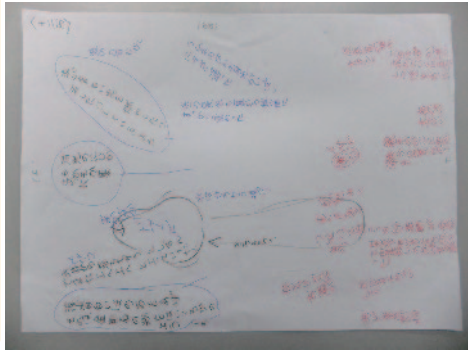
「読み取りのノート(イメージ表)」1組から『5月』



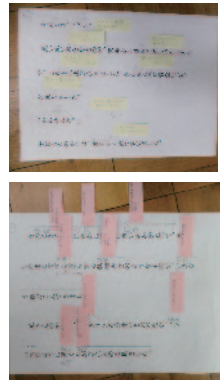
白紙を水刃に見立て、上下は水面・水中・水底に、左右は川上・川下を決め、どこで何が起きているのかまとめたり、色を使って地の文や自分の気持ちなどを分かるようにした。



「読み取りのノート(イメージ表)」1組から『12月』



読み取ったことをもとに読み方の工夫を
考え、友達との話し合いで根拠をもとにし
た読み方を決め、群読に生かした。



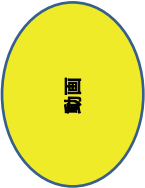
2組授業写真
群読の話し合い

「年表ワークシート」2組から

1	12月	読者の工夫	読者の話	読者の決断
2	12月	読者の工夫	読者の話	読者の決断
3	12月	読者の工夫	読者の話	読者の決断
4	12月	読者の工夫	読者の話	読者の決断
5	12月	読者の工夫	読者の話	読者の決断
6	12月	読者の工夫	読者の話	読者の決断
7	12月	読者の工夫	読者の話	読者の決断
8	12月	読者の工夫	読者の話	読者の決断
9	12月	読者の工夫	読者の話	読者の決断
10	12月	読者の工夫	読者の話	読者の決断
11	12月	読者の工夫	読者の話	読者の決断
12	12月	読者の工夫	読者の話	読者の決断



①年表形式にして
・いつ ・賢治の行動や出来事 ・賢治の考え方 について書き込む。
②宮沢賢治はどんな人
自分なりの考えをもつ



研究メンバー

■袋井市立高南小学校

校長 岡田松吾

教頭 兼子近司

1 年部 比奈地典子 山口亜矢 安間早紀奈 小倉理恵子

2 年部 金原理恵子 内藤俊茂 榛葉佑佳 太田幸恵

3 年部 村松靖則 新木 友 神田泰子 袴田友子

4 年部 山田弘子 大石和正 滝口泰宏 神谷とよ子

5 年部 鈴木博之 松尾健央 近藤郁子 齋藤奈奈

6 年部 寺田育代 及川尚紀 鈴木由美

■東京大学大学院教育学研究科

助教 植阪友理

国語科における「教えて考えさせる授業」の実践
—平成27年度袋井市立高南小学校の挑戦—
植阪友理・大石和正（編著）

発行者：東京大学大学院教育学研究科 植阪友理

連絡先：〒113-003

東京都文京区本郷7-3-1

東京大学大学院教育学研究科教育学部棟

E-mail: y_uesaka@p.u-tokyo.ac.jp

Tel & Fax: 03-5841-4915

発行日：平成28年3月31日

印刷/製本：よしみ工産

